

(別表3)

## 言語聴覚学科 教育課程

## 1 専門基礎分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
基礎医学							
医学総論	30				30	2	
解剖学Ⅰ	30				30	2	
生理学		30			30	2	
病理学		30			30	2	
小計	60	60	0	0	120	8	
臨床医学							
内科学		30			30	2	
小児科学		30			30	2	
精神医学		30			30	2	
リハビリテーション医学			30		30	2	
耳鼻咽喉科学	30				30	2	
臨床神経学Ⅰ		30			30	2	
臨床神経学Ⅱ			30		30	2	
形成外科学		15			15	1	
小計	30	135	60	0	225	15	
臨床歯科医学							
臨床歯科医学	30				30	2	
小計	30	0	0	0	30	2	
音声・言語・聴覚医学							
解剖学Ⅱ	30				30	2	
解剖学Ⅲ	30				30	2	
解剖学Ⅳ	30				30	2	
小計	90	0	0	0	90	6	
心理学							
臨床心理学Ⅰ	30				30	2	
臨床心理学Ⅱ		30			30	2	
生涯発達心理学Ⅰ	30				30	2	
生涯発達心理学Ⅱ		30			30	2	
学習・認知心理学	45				45	3	
心理測定法	30				30	2	
小計	135	60	0	0	195	13	
言語学							
言語学		30			30	2	
小計	0	30	0	0	30	2	
音声学							
音声学	45				45	3	
小計	45	0	0	0	45	3	
音響学							
音響学	30				30	2	
聴覚心理学		15			15	1	
小計	30	15	0	0	45	3	
言語発達学							
言語発達学	15				15	1	
小計	15	0	0	0	15	1	
社会福祉・教育							
社会保障制度	15				15	1	
リハビリテーション概論	15				15	1	
医療福祉教育・関係法規	15				15	1	
小計	45	0	0	0	45	3	
専門基礎分野合計	480	300	60	0	840	56	

## 2 専門分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
言語聴覚障害学総論							
言語聴覚障害概論Ⅰ	30				30	2	
言語聴覚障害概論Ⅱ		30			30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅰ			30		30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅱ			30		30	2	
小計	30	30	60	0	120	8	
失語・高次脳機能障害学							
失語症Ⅰ-1	30				30	2	
失語症Ⅰ-2		30			30	2	
失語症Ⅱ			60		60	4	
高次脳機能障害学Ⅰ	30				30	2	
高次脳機能障害学Ⅱ		30			30	2	
小計	60	60	60	0	180	12	
言語発達障害学							
言語発達障害Ⅰ-1	30				30	2	
言語発達障害Ⅰ-2		60			60	4	
言語発達障害Ⅱ			30		30	2	
言語発達障害Ⅲ			30		30	2	
言語発達障害Ⅳ		30			30	2	
小計	30	90	60	0	180	12	
発声発語・嚥下障害学							
音声障害			30		30	2	
構音障害Ⅰ		30			30	2	
構音障害Ⅱ			30		30	2	
構音障害Ⅲ		30			30	2	
構音障害Ⅳ			30		30	2	
嚥下障害Ⅰ	30				30	2	
嚥下障害Ⅱ			45		45	3	
吃音			30		30	2	
小計	30	60	165	0	255	17	
聴覚障害学							
小児聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
小児聴覚障害Ⅱ			30		30	2	
小児聴覚障害Ⅲ			30		30	2	
成人聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅱ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅲ			15		15	1	
補聴器・人工内耳			30		30	2	
視覚・聴覚二重障害			15		15	1	
小計	0	90	120	0	210	14	
臨床実習							
臨床実習Ⅰ		40			40	1	
臨床実習Ⅱ				160	160	4	
臨床実習Ⅲ				320	320	8	
小計	0	40		480	520	13	
専門分野合計(臨床実習を除く)	150	330	465	0	945	63	
専門分野合計	150	370	465	480	1465	76	
総計	630	670	525	480	2305	132	
年次合計	1300		1005		2305	132	

## 3 選択科目

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
レクリエーション活動援助法							
レクリエーション活動援助法Ⅰ	30				30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅱ		30			30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅲ			30		30	1	
小計	30	30	30	0	90	3	

\*講義及び演習は15時間を1単位、臨床実習は40時間を1単位とする。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学総論	植村 理	1	2	前期	必修

◇講義概要

疾病・障害の概念と社会環境、医の倫理、法・制度、保健統計、疫学健康管理について学ぶ。

◇到達目標

- ・ 疾病、障害の概念と社会環境について説明できる
- ・ 医の倫理、法・制度について説明できる
- ・ 保健統計、疫学健康管理について説明できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	健康の概念、背景因子、予防医学	講義	
第2回	医療倫理	講義	
第3回	診療補助行為、チーム医療・多職種連携、地域医療	講義	
第4回	医療安全、臨床研究、EBM	講義	
第5回	人口・保健統計、疫学	講義	
第6回	QOL、インクルージョン、ノーマライゼーション	講義	
第7回	リハビリテーション、生活機能と障害(ICF)	講義	
第8回	健康管理、健康診断・診査、生活習慣	講義	
第9回	母子保健	講義	
第10回	成人・老人保健	講義	
第11回	精神保健	講義	
第12回	感染症対策	講義	
第13回	環境保健	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	定期試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)

教科書	公衆衛生がみえる 2023-2024 (メディックメディア)
参考図書	なし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学 I	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、細胞、組織、皮膚、骨、筋、血液、免疫系において、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	解剖生理学とは？—ホメオスタシスとフィードバック機構	講義	
第2回	細胞と組織(1)—細胞の構造と機能	講義	
第3回	細胞と組織(2)—組織の構造と機能	講義	
第4回	皮膚と膜(1)—皮膚と膜の構造と機能	講義	
第5回	皮膚と膜(2)—体熱産生、体温	講義	
第6回	骨格系(1)—骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第7回	骨格系(2)—頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格、関節	講義	
第8回	筋系(1)—筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第9回	筋系(2)—骨格筋（頭部、体幹）	講義	
第10回	筋系(3)—骨格筋（上肢、下肢）、筋の病気	講義	
第11回	血液(1)—血球成分、血球機能	講義	
第12回	血液(2)—血球分化、凝固と線溶、血液型	講義	
第13回	免疫系(1)—自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第14回	免疫系(2)—免疫と感染症、自己免疫疾患、アレルギー	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 62 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	■小テスト ( 28 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (        %)

教科書	「人体の構造と機能（1）解剖生理学」（ナーシンググラフィカ） 「イメージできる解剖生理学」（ナーシングサプリ）
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」（医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	坂田 進	1	2	後期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、消化器、腎、内分泌腺、生殖器、神経、感覚器において、これらの生理機能とその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	消化器系(1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第2回	消化器系(2)－消化の生理	講義	
第3回	消化器系(3)－吸収・排泄の生理	講義	
第4回	泌尿器系(1)－腎の生理	講義	
第5回	泌尿器系(2)－排尿の生理	講義	
第6回	内分泌系(1)－脳ホルモン、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	講義	
第7回	内分泌系(2)－膵ホルモン、副腎ホルモン、性腺ホルモン	講義	
第8回	生殖器系－女性生殖器の生理、男性生殖器の生理	講義	
第9回	神経系(1)－ニューロン、シナプス、中枢神経系	講義	
第10回	神経系(2)－末梢神経系、生体リズム	講義	
第11回	感覚系(1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第12回	感覚系(2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第13回	生理学実習(1)－視覚機能の測定	演習	
第14回	生理学実習(2)－重量感覚の測定	演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 62 %)	□実技試験 (     %)	■演習評価 (     4 %)
	■小テスト ( 24 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (     %)

教科書	「人体の構造と機能(1) 解剖生理学」(ナーシンググラフィカ) 「イメージできる解剖生理学」(ナーシングサプリ)
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	廣石伸互	1	2	後期	必修

◇講義概要

様々な病気および病的状態の原因、それらの発症・進展の過程などを、細胞レベルまで掘り下げ、病気の本質を科学的に学ぶ。

◇到達目標

言語聴覚士として、病気を抱える人たちに寄り添うには、病気の実態を正確に把握することが必要不可欠である。主要な病気を、循環障害や遺伝子異常などのように系統的に整理し、それぞれを細胞・組織レベルおよび肉眼レベルで総合的に理解することを目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	病理学とは	講義	
第2回	細胞・組織の損傷	講義	
第3回	炎症	講義	
第4回	免疫	講義	
第5回	アレルギー	講義	
第6回	感染症	講義	
第7回	循環器障害 充血とうっ血	講義	
第8回	循環器障害 虚血と梗塞	講義	
第9回	代謝障害	講義	
第10回	先天異常の分類	講義	
第11回	先天異常 染色体異常と遺伝子異常	講義	
第12回	腫瘍とは何か	講義	
第13回	悪性腫瘍の広がりと影響	講義	
第14回	脳・神経系の疾患	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100 % )	□実技試験 (        % )	□演習評価 (        % )
	□小テスト (        % )	□レポート (        % )	□その他 (        % )

教科書	系統看護学講座, 専門基礎分野, 病理学 第6版, 医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがある 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	植村 理	1	2	後期	必修

◇講義概要

内科疾患は多岐にわたるため臓器別・系統別の各論を説明し、個々の内科疾患の理解を促したうえで診断などの総論を解説する。

◇到達目標

内科疾患を理解し、対象者の全身状態の把握が可能となることにより、リハビリテーションを効率よく安全に行うことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	内科学とは 循環器疾患 1	講義	
第2回	循環器疾患 2	講義	
第3回	呼吸器疾患 1	講義	
第4回	呼吸器疾患 2	講義	
第5回	消化器疾患	講義	
第6回	肝胆膵疾患	講義	
第7回	血液・造血器疾患	講義	
第8回	代謝性疾患	講義	
第9回	内分泌疾患	講義	
第10回	腎・泌尿器疾患	講義	
第11回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	講義	
第12回	感染症	講義	
第13回	リハビリテーションに必要な栄養学 症候学	講義	
第14回	内科学診断と治療の実際	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版 (医学書院)
参考図書	なし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	田中輝房	1	2	後期	必修

◇講義概要

<p>1. 小児の成長と発達を学ぶ。 2. 小児期特有の基本的な生理と病気について学ぶ。</p>
--

◇到達目標

<p>1. 小児科学の特長である小児の発達（運動、精神など）を理解する。 2. 小児期に多くみられる疾患について時には生理学とともに理解する。</p>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章：A,B 小児の発達と成長 P3～16	講義	
第2回	第1章：C,D 栄養と小児保健 P16～30	講義	
第3回	第3章：新生児・未熟児疾患 P39～58	講義	
第4回	第4章 A～D：先天異常 P59～70	講義	
第5回	第4章 E：先天代謝異常 P70～77	講義	
第6回	第5章：神経・筋肉疾、第7章：骨疾患 P78～114、P125～129	講義	
第7回	第8章：循環器疾患 P130～141	講義	
第8回	第9章、10章：呼吸器疾患と感染症 P142～164	講義	
第9回	第11章：消化器疾患 P165～176	講義	
第10回	第12章：内分泌疾・代謝疾患 P177～186	講義	
第11回	第13章：血液疾患・第16章：腫瘍性疾患 P187～196、P214～217	講義	
第12回	第14章：免疫・アレルギー疾患、膠原病 P197～206	講義	
第13回	第15章：腎・泌尿器疾患 P207～213	講義	
第14回	第6章：発達障害・17章以降 P115～125、P218～244	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<p>■試験 ( 95%) □実技試験 ( %) □演習評価 ( %) □小テスト ( %) □レポート ( %) ■その他 ( 宿題 5%)</p>
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版：医学書院
参考図書	適時プリントを配布する
留意事項	<p>①各講義の範囲を一読し、予習しておくこと ②おおむね 各講義の終了後、宿題を出します。次回講義日 午前中までに提出すること。</p>

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学	水井 亮	1	2	後期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎知識を学習する。具体的には、総論、各論（器質性精神障害、機能的な精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、精障害、老年期の障害）。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と発症メカニズムの仮説を概説できる。  
治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神疾患の診断と評価	講義	
第2回	発達障害①総論・自閉スペクトラム症	講義	
第3回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第4回	統合失調症	講義	
第5回	気分障害①大うつ病性障害	講義	
第6回	気分障害②双極性障害	講義	
第7回	アルコール・薬物依存症	講義	
第8回	動機付け面接	講義	
第9回	自傷・自殺	講義	
第10回	神経症	講義	
第11回	向精神薬総論	講義	
第12回	精神遅滞、てんかん	講義	
第13回	認知症	講義	
第14回	摂食障害・パーソナリティ障害	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100%)	□実技試験 ( %)	□演習評価 ( %)
	□小テスト ( %)	□レポート ( %)	□その他 ( %)

教科書	配布資料
参考図書	New Simple Step 精神科 総合医学社
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション医学	関谷博之	2	2	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションおよび医療の概要、両者の関連性について学ぶ
--------------------------------

◇到達目標

<p>リハビリテーション、医療の意味を知ること。          身体運動・行動・行為を支える人体システムの理解。          「システム不全＝障害」について。          障害を引き起こす疾患の理解。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの語源・定義について	講義	
第2回	身体各システムの概略・測定法の原理	講義	
第3回	理学療法・作業療法・言語療法について	講義	
第4回	理学療法の評価・実践上必須の徒手筋力テスト(MMT)とROMテストについて	講義	
第5回	運動・認知機能について	講義	
第6回	中枢神経障害①(錐体路障害・コミュニケーション障害)	講義	
第7回	中枢神経障害②(錐体外路障害・大脳基底核の障害)	講義	
第8回	脊髄障害・末梢神経障害・筋障害	講義	
第9回	脳性麻痺・発達障害	講義	
第10回	遺伝疾患について	講義	
第11回	骨関節疾患①(関節リウマチ等)	講義	
第12回	骨関節疾患②(変形性関節症等・切断)	講義	
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患	講義	
第14回	運動生理学・運動解剖学 　　まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験(100%) <input type="checkbox"/> 実技試験( )% <input type="checkbox"/> 演習評価( )% <input type="checkbox"/> 小テスト( )% <input type="checkbox"/> レポート( )% <input type="checkbox"/> その他( )%
------	---

教科書	資料を配布する
参考図書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 (診断と治療社)
留意事項	授業前には、当該授業部分の資料等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
耳鼻咽喉科学	宮原 裕	1	2	前期	必修

◇講義概要

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学の解剖、生理、疾患の病態について学ぶ
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学について学び理解する</li> <li>・急性炎症、慢性炎症、難聴、めまい（平衡障害）、腫瘍（良性・悪性）、救急疾患（外傷、鼻出血、呼吸障害、異物）、遺伝性疾患の理解する</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	耳鼻咽喉科学の特長、診察、治療法の進歩、(解剖の図配布)	講義	
第2回	鼻科学 解剖、生理（嗅覚）、鼻腔疾患（花粉症・アレルギー性鼻炎など）	講義	
第3回	鼻科学 副鼻腔疾患（副鼻腔炎など）、 耳科学 解剖、生理、	講義	
第4回	耳科学 外耳疾患、中耳疾患（慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、滲出性中耳炎など）、顔面神経麻痺	講義	
第5回	耳科学 内耳疾患（めまい疾患(BPPV、メニエール病、前庭神経炎、聴神経腫瘍など)、遺伝子異常、補聴器、新生児・幼児難聴スクリーニング	講義	
第6回	耳科学 聴力検査・平衡機能検査	講義	
第7回	口腔・咽頭科学 解剖、生理（味覚）、口腔疾患（口内炎、前癌病変など）	講義	
第8回	口腔・咽頭科学 咽頭疾患（扁桃炎と手術、咽後膿瘍、咽喉頭異常感症など）	講義	
第9回	喉頭科学 解剖、生理、喉頭疾患（炎症、声帯ポリープなど）	講義	
第10回	喉頭科学 喉頭疾患（反回神経麻痺など）、音声障害	講義	
第11回	気管、食道科学 解剖、生理、異物、気管切開、甲状腺・唾液腺・頸部腫瘍など	講義	
第12回	頭頸部腫瘍学（1） 頸部郭清術、上顎癌、口腔癌、甲状腺癌	講義	
第13回	頭頸部腫瘍学（2） 喉頭癌、咽頭癌（上、中、下）、喉摘後の音声リハビリ	講義	
第14回	頭頸部腫瘍学（3） 副鼻腔癌、鼻副鼻腔乳頭腫、嚥下障害と嚥下リハビリ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 演習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input type="checkbox"/> レポート（ % ） <input type="checkbox"/> その他（ % ）
------	---

教科書	耳鼻咽喉科ビジュアルブック 第2版 Gakken
参考図書	病気がみえる13巻耳鼻咽喉科 MEDIC MEDIA 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学（第3版）、田山二郎編、医学書院
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学 I	前川基継	1	2	後期	必修

◇講義概要

脳血管障害、脳神経外科学などについて学ぶ

◇到達目標

- ・脳神経、脳血管系について説明できる
- ・脳疾患の原因、対応について理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科緒論	講義	
第2回	脳・脊髄の臨床解剖① 頭蓋と頭蓋内腔構造、髄膜、脳室と髄液循環	講義	
第3回	脳・脊髄の臨床解剖② 大脳、脳幹、小脳、脊髄の解剖と機能・局所徴候	講義	
第4回	脳・脊髄の臨床解剖③ 脳神経の機能、主要脳血管の走行・支配領域	講義	
第5回	神経学的検査	講義	
第6回	脳神経疾患の補助診断法	講義	
第7回	脳に特異的な症候と病態	講義	
第8回	脳腫瘍① 脳腫瘍の分類、発生頻度、症状、診断、治療法	講義	
第9回	脳腫瘍② 神経膠腫、髄膜腫など各脳腫瘍	講義	
第10回	脳血管障害① 脳血管障害の疫学、出血性脳血管障害	講義	
第11回	脳血管障害② 虚血性脳血管障害、もやもや病	講義	
第12回	頭部外傷	講義	
第13回	機能的脳神経外科、炎症性疾患	講義	
第14回	総復習	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	標準 脳神経外科学 第15版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学Ⅱ	前川基継	2	2	前期	必修

◇講義概要

・変性疾患、脱髄疾患、認知症、末梢神経障害、筋疾患等について学ぶ

◇到達目標

・言語障害の原因となる、脳・神経疾患の特質がわかる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科学の復習	講義	
第2回	神経内科学総論	講義	
第3回	脱髄性疾患① 脱髄性疾患の概要、多発性硬化症と視神経脊髄炎の相違点を理解する	講義	
第4回	脱髄性疾患② 急性散在性脳脊髄炎その他の脱髄疾患について	講義	
第5回	感染症 頭蓋内感染症の復習とライム病など神経内科的感染症について	講義	
第6回	変性疾患① アルツハイマー型認知症など大脳皮質変性が主な疾患について	講義	
第7回	変性疾患② パーキンソン病など基底核の変性が主な疾患について	講義	
第8回	変性疾患③ 脊髄小脳変性症など小脳や脊髄の変性が主な疾患について	講義	
第9回	変性疾患④ 筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロンの変性が主な疾患について	講義	
第10回	神経筋接合部疾患 重症筋無力症とイートン・ランバート症候群の違いを理解する	講義	
第11回	末梢神経疾患 ギランバレー症候群など種々の末梢神経炎について	講義	
第12回	骨格筋疾患 筋ジストロフィーなど遺伝性筋疾患と炎症性筋疾患について	講義	
第13回	脳血管疾患、外傷性疾患、脳腫瘍等 各疾患のポイントを認識する	講義	
第14回	臨床神経学総復習	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	□レポート (        %)	□その他 (        %)

教科書	・イラストでわかる PT・OT・ST のための神経内科学 改訂2版 (メディカ出版)
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
形成外科学	川上正良・山川延宏・柳生貴裕・ 中村泰士・金川紗央理	1	1	後期	必修

◇講義概要

形成外科学総論、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外傷、頭頸部外科手術にともなう変形・機能障害等について学ぶ。

◇到達目標

代表的な疾患とその治療法について理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当
第1回	顎発育の異常とその治療法	講義	川上正良
第2回	顎顔面外傷	講義	柳生貴裕
第3回	顎変形症	講義	中村泰士
第4回	口唇裂口蓋裂	講義	山川延宏
第5回	口腔癌と口腔顎顔面再建	講義	山川延宏
第6回	皮膚の構造と熱傷	講義	金川紗央理
第7回	皮膚の良性腫瘍、悪性腫瘍	講義	金川紗央理
第8回	試験	試験	川上正良

評価方法	■試験 ( 100 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	□レポート (        %)	□その他 (        %)

教科書	標準 形成外科学 第7版 (医学書院)
参考図書	器質性構音障害治療のポイント 口腔顎顔面領域の異常と言語障害 (医歯薬出版)
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床歯科医学	窪田亮介・浜中康弘	1	2	前期	必修

◇講義概要

顎口腔の構造と歯科・口腔外科疾患の特徴、病因および治療法の基本概念を理解し、言語聴覚士としての基礎知識を深める。

◇到達目標

1. 歯・口腔・顎・顔面の構造と機能を理解できる。
2. 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置の基本概念を理解できる。
3. 口腔・顎・顔面の損傷の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
4. 口腔・顎・顔面の炎症・感染症の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
5. 口腔・顎・顔面の嚢胞・腫瘍・類似疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
6. 口腔・顎・顔面の先天異常・発育異常の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
7. 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
8. 唾液腺疾患・顎関節疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
9. 口腔粘膜疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
10. 歯列不正と歯科矯正治療の基本概念を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 1 歯・口腔・顎・顔面の形態と構造	講義	窪田
第2回	第1章-2 歯・口腔・顎・顔面の発生と発育 第1章-3 歯・口腔・顎・顔面の機能 第1章-4 口腔の診査法	講義	窪田
第3回	第3章-1 口腔・顎・顔面の先天異常	講義	窪田
第4回	歯科矯正学	講義	浜中
第5回	第3章-2 口腔・顎・顔面の発育異常・損傷	講義	窪田
第6回	第3章-3 口腔・顎・顔面の炎症・感染症	講義	窪田
第7回	第3章-4 口腔・顎・顔面の嚢胞および類似疾患	講義	窪田
第8回	第3章-9 口腔粘膜疾患	講義	窪田
第9回	第3章-6 唾液腺疾患・8 顎関節疾患	講義	窪田
第10回	第3章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	窪田
第11回	第3章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	窪田
第12回	第3章-7 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態	講義	窪田
第13回	第4章-咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法	講義	窪田
第14回	第7章-5 口腔疾患による構音障害 6 舌・口底切除・顎切除後の構音障害	講義	窪田
第15回	試験 (60分) 解説 (30分)	試験・講義	窪田

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版    医歯薬出版株式会社
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、呼吸器と循環器について、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。さらに、実習を通して呼吸循環機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 呼吸・循環器系において、構造・疾病と関連づけて生理機能・病態生理を説明できる。
2. 呼吸・循環器系について理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸・循環器系とは？－なぜ、酸素が必要か？	講義	
第2回	呼吸器系の構造(1)－鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺	講義	
第3回	呼吸器系の構造(2)－胸郭、呼吸筋	講義	
第4回	呼吸生理学(1)－換気、外呼吸	講義	
第5回	呼吸生理学(2)－ガス交換、血液酸素解離曲線	講義	
第6回	呼吸生理学(3)－内呼吸、ガス運搬	講義	
第7回	呼吸生理学(4)－化学受容器、呼吸中枢	講義	
第8回	呼吸検査－呼吸曲線、努力呼吸曲線、フローボリューム曲線	講義	
第9回	循環器系(1)－心臓の構造	講義	
第10回	循環器系(2)－刺激伝導系、心周期、心電図	講義	
第11回	循環器系(3)－心臓血管、胎児循環	講義	
第12回	循環器系(4)－血圧、リンパ系	講義	
第13回	生理学実習(1)－血圧・心拍数の測定－基礎編	演習	
第14回	生理学実習(2)－血圧・心拍数の測定－応用編	演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 62 %)	□実技試験 (        %)	■演習評価 ( 4 %)
	■小テスト ( 24 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (        %)

教科書	「人体の構造と機能(1)解剖生理学」(ナーシンググラフィカ) 「イメージできる解剖生理学」(ナーシングサプリー)
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ	赤井美貴子・今野奈央・岸田隆之	1	2	前期	必修

◇講義概要

・聴器の構造・機能・病態について理解するとともに、聴覚障害を病変部位別に分類しその特徴や鑑別診断の方法について学ぶ。
--

◇到達目標

1. 聴覚系の構造・機能を説明できる
2. 聴覚障害の原因疾患を説明できる。
3. 聴覚障害を病変部位別に分類し、その特徴を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴器の概要、聴器の構造：外耳（耳介、外耳道）	講義	赤井
第2回	聴器の構造：中耳（鼓膜、鼓室の構造、耳小骨、耳管、乳突蜂巣）	講義	赤井
第3回	聴器の構造：聴覚器としての内耳 （蝸牛の構造、膜迷路・骨迷路、コルチ器）	講義	赤井
第4回	聴器の構造：聴覚伝導路	講義	赤井
第5回	聴器の構造：平衡器としての内耳（前庭、半規管）	講義	赤井
第6回	聴器の発生	講義	赤井
第7回	[小テスト]、難聴の分類、オーディオグラム、伝音難聴	講義	今野
第8回	聴器の病態：伝音難聴（外耳・中耳の疾患）	講義	今野
第9回	聴器の病態：伝音難聴（中耳の疾患）②、感音難聴（概要）	講義	今野
第10回	聴器の病態：感音難聴（後天性の疾患）	講義	今野
第11回	聴器の病態：感音難聴（先天性の疾患）	講義	今野
第12回	聴器の病態：聴力の変動、後迷路性難聴、機能性難聴	講義	今野
第13回	聴器の病態：まとめ	講義	今野
第14回	試験	試験	今野
第15回	まとめ・国家試験過去問演習	演習・講義	岸田

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 20 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂5版（南山堂）
参考図書	病気がみえる vol.7・13（メディックメディア）、耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック第2版（学研）
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅳ	堀田 明人	1	2	前期	必修

◇講義概要

神経細胞の電氣的興奮により情報伝達を行っており、神経系の働きや病態を理解するために主な伝導路を把握する必要がある。中枢神経系と末梢神経系の構造、機能についての概要を学習する

◇到達目標

- 1.脳・脊髄の構造や機能、伝導路について正しく理解し説明できるようになる
- 2.神経細胞の形態と情報伝達について正しく理解し説明できるようになる
- 3.脳神経・末梢神経・自律神経の構造や機能について正しく理解し説明できるようになる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	神経系の全体像と大脳の構造	講義	2-9
第2回	神経細胞と神経伝導・伝達のしくみ	講義	10-21/388
第3回	脳幹（中脳・橋・延髄）の構造と機能について	講義	46-47/100-101/116-117/
第4回	大脳皮質の構造と機能について	講義	22-39/103-104
第5回	脊髄の構造について	講義	284-287
第6回	脳脊髄液・脳室について	講義	168-171
第7回	大脳辺縁系および大脳基底核の構造と機能について	講義	40-43/50-55/112-115/212-213
第8回	間脳の構造と機能について	講義	44-45/50-55
第9回	小脳の構造と機能について	講義	48-49/50-55/118-119/214-217
第10回	伝導路（錐体路・錐体外路・体性感覚）について	講義	190-197/198-199/218-223
第11回	脳動脈の構造と灌流について	講義	56-67/124-125
第12回	末梢神経(脳神経・脊髄神経)の構造と機能について II 視神経まで	講義	242-247/248-279/294-299
第13回	末梢神経(脳神経・脊髄神経)の構造と機能について III 動眼～XII副	講義	
第14回	自律神経系の構造と機能について	講義	230-241
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 80%) □実技試験 ( %)	□演習評価 ( %)
	■小テスト ( 20%) □レポート ( %)	□その他 ( %)

教科書	病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア リハビリ PT・OT・ST・Dr. のための脳画像の新しい勉強本 三輪書店
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学 I	岡崎良仁	1	2	前期	必修

◇講義概要

様々な心の問題について学び、当事者の気持ちについて考え、どのような心理的援助ができるか考える。  
また、臨床心理学の基本的な理論について学ぶ。

◇到達目標

様々な心の問題について理解する。  
心の問題を援助する際に必要となる基本的な概念を知る。  
心の問題を援助する際の基本的な態度を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	臨床心理学とは	講義・演習	
第2回	こころの問題（1） 問題の分類と概説	講義	
第3回	こころの問題（2） 発達障害	講義	
第4回	こころの問題（3） 統合失調症	講義	
第5回	こころの問題（4） うつ病	講義	
第6回	こころの問題（5） 人格障害	講義	
第7回	こころの問題（6） 神経症	講義	
第8回	こころの問題（7） こころと体の問題	講義	
第9回	基礎理論（1） フロイトの精神分析① 人格理論	講義	
第10回	基礎理論（2） フロイトの精神分析② 発達理論	講義	
第11回	基礎理論（3） 精神分析理論の展開	講義	
第12回	基礎理論（4） エリクソンの発達理論	講義	
第13回	基礎理論（5） ロジャーズの来談者中心療法①人格理論	講義	
第14回	基礎理論（6） ロジャーズの来談者中心療法②ロールプレイ	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版 (ナカニシヤ出版)
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習では班に分かれてグループディスカッションを行います。 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学Ⅱ	岡崎良仁	1	2	後期	必修

◇講義概要

人の多種多様な心のあり様に多角的に取り組めるように、様々な心理療法を学ぶ。また、心のあり様を把握するための様々な心理アセスメントに触れ、人の心のあらわれ方への理解を深める。

◇到達目標

各心理療法の特徴と違いを概説することができる。  
各アセスメントの手続きと解釈について理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	心理療法（1） 遊戯療法	講義	
第2回	心理療法（2） 芸術療法	講義	
第3回	心理療法（3） 行動療法	講義	
第4回	心理療法（4） 認知療法	講義	
第5回	心理療法（5） 家族療法・集団心理療法	講義	
第6回	心理アセスメント（1） 発達検査	講義	
第7回	心理アセスメント（2） 知能検査① WAIS-Ⅲ（知能の定義）	講義・演習	
第8回	心理アセスメント（3） 知能検査② WAIS-Ⅲ（下位項目）	講義・演習	
第9回	心理アセスメント（4） 類型論と特性論	講義	
第10回	心理アセスメント（5） 人格検査（質問紙法）	講義・演習	
第11回	心理アセスメント（6） 人格検査（作業検査法）	講義・演習	
第12回	心理アセスメント（7） 人格検査（投影法）① 描画法・SCT	講義・演習	
第13回	心理アセスメント（8） 人格検査（投影法）② TAT・P-Fスタディ・ロールシャッハテスト	講義・演習	
第14回	心理アセスメント（9） その他の心理検査	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版（ナカニシヤ出版）
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習ではグループに分かれ、実際の検査に触れながら学びます。 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学 I	山岸直美	1	2	前期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で乳幼児期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

各発達段階における特徴を把握し、自分や他者の具体的な姿と関係づけることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発達とは	講義	
第2回	発達の規定要因	講義	
第3回	発達研究法	講義	
第4回	主な発達理論① フロイト、エリクソン	講義	
第5回	主な発達理論② ピアジェ	講義	
第6回	まとめと演習（発達理論まで）	講義	
第7回	胎児期	講義	
第8回	乳児期① ～発達段階・運動発達～	講義	
第9回	乳児期② ～知覚・認知の発達～	講義	
第10回	乳児期③ ～社会性～	講義	
第11回	乳児期④ ～愛着～	講義	
第12回	幼児期① ～発達段階～	講義	
第13回	幼児期② ～感情の発達・自己意識の発達～	講義	
第14回	まとめと演習（幼児期②まで）	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（    %） <input type="checkbox"/> 演習評価（    %） <input type="checkbox"/> 小テスト（    %） <input type="checkbox"/> レポート（    %） <input type="checkbox"/> その他（    %）
------	--

教科書	特になし、プリントを配布。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	授業の最後に、授業内容に関する小テストを実施。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学Ⅱ	山岸直美・岡崎良仁	1	2	後期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で幼児期～老年期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

各発達段階における特徴を把握し、自分や他者の具体的な姿と関連づけることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	幼児期③ ～ことば～	講義	山岸
第2回	幼児期④ ～遊び～	講義	山岸
第3回	幼児期⑤ ～仲間関係と他者の心の理解～	講義	山岸
第4回	児童期① ～発達段階～	講義	山岸
第5回	児童期② ～遊び・仲間集団・道徳性の発達～	講義	山岸
第6回	まとめと演習（児童期②まで）	講義	山岸
第7回	ライフサイクル論	講義	岡崎
第8回	青年期① ～心身の変化～	講義	岡崎
第9回	青年期② ～家族関係～	講義	岡崎
第10回	青年期③ ～友人関係～	講義	岡崎
第11回	成人期① ～結婚・子育て～	講義	岡崎
第12回	成人期② ～キャリアの発達～	講義	岡崎
第13回	成人期③ ～中年期～	講義	岡崎
第14回	老年期	講義	岡崎
第15回	試験	試験	岡崎

評価方法	■試験（100%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	特になし、プリントを配布。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	授業の最後に、授業内容に関する小テストを実施。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
学習・認知心理学	木村洋太	1	3	前期	必修

◇講義概要

心理学は人について理解する学問である。そのため、私たち人間が日々の生活で行なっている知覚・行動・思考・感情などの全て、またそれらを支える心や身体のメカニズムは全て心理学の領域と言える。本講義では、その切り口の多さ、当たり前すぎて気づくことさえない心理のメカニズムについて、広くその概要を学んでいく。対人理解にとって、またSTにとってなぜ心理学が必要なのか、意識と理解を深める。

◇到達目標

人間そのもの、そして人間の行為を支える心と身体のメカニズムについて、つながりを意識しながら深く理解することができる。具体的には、見る・聞く・感じるという最も根幹の感覚知覚機能、覚える・推論する・問題解決などの高次な認知機能、そして断片的な手がかりから他者を判断してしまう対人認知の癖まで広く理解する。また、人の行動をより望ましい方向に導くために、条件付けを元にする学習理論を日常に応用させながら、人の行動の仕組みを深く考察できることなどを目的とする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考	担当
第1回	記憶の分類	講義	認知心理学	
第2回	記銘法（精緻／体制化／生成）と記憶の検査法	講義	認知心理学	
第3回	忘却（記憶の変容／偽りの記憶）、感情と記憶	講義	認知心理学	
第4回	潜在記憶と健在記憶（プライミングとネットワークモデル）	講義	認知心理学	
第5回	古典的条件付け（汎化、消去、実験神経症）	講義	学習心理学	
第6回	オペラント条件付け（強化と罰様々な学習、試行錯誤、洞察、弁別）	講義	学習心理学	
第7回	オペラント条件付け（強化スケジュール、自己強化）	講義	学習心理学	
第8回	社会的学習（模倣、代理強化、社会的学習理論）	講義	学習心理学	
第9回	技能学習（高原現象、知覚運動協応、転移）	講義	知覚心理学	
第10回	網膜の仕組み（解剖、視細胞の仕組み）	講義	感覚知覚心理学	
第11回	感覚の種類と感覚可能範囲、閾値、順応	講義	感覚知覚心理学	
第12回	形（2D）の知覚と立体（3D）の知覚	講義	感覚知覚心理学	
第13回	運動知覚	講義	知覚心理学	
第14回	色知覚	講義	知覚心理学	
第15回	問題解決1（問題空間と思考）	講義	認知心理学	
第16回	問題解決2（解決方略と知識の役割）	講義	認知心理学	
第17回	推論（演繹と帰納）	講義	認知心理学	
第18回	概念（概念獲得と発達、知識）	講義	認知心理学	
第19回	空間認知（心的回転、空間地図、整列効果）	講義	認知心理学	

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

第20回	動機付け（内発的動機、外発的動機）	講義	社会心理学	
第21回	社会的認知（対人認知、バイアス、ステレオタイプ）	講義	社会心理学	
第22回	試験	試験		
第23回	まとめと対策	講義		
評価 方法	■試験（80%）      □実技試験（      %）      □演習評価（      %） ■小テスト（20%）      □レポート（      %）      □その他（      %）			

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施するので、復習しておくこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理測定法	木村洋太	1	2	前期	必修

◇講義概要

心理学で扱う様々な心の機能を知るためには、それをどうにかして目に見える形に表わさなければならぬ。そのための様々な技法が心理測定法である。本講義では、測定したい心の内容に合わせて開発された様々な測定法の決まりや特徴を座学として学習する。また、測定した心の機能を客観的なデータ（心の特徴）として提示するために、そのデータのまとめ方や論拠のたて方などを心理統計として学習する。

◇到達目標

心の機能に応じて開発された種々の測定法の原理や特徴を熟知し、それぞれを説明することができる。測定したデータを客観的に分析・解釈するための統計分析の方法を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（心理測定とは、心理統計とは）	講義	
第2回	実験計画法（従属変数、独立変数、剰余変数、交絡、参加者計画）	講義	
第3回	記述統計その1（代表値と散布度）	講義	
第4回	記述統計その2（尺度水準）	講義	
第5回	2変数のまとめ方（相関分析の特徴と回帰分析）	講義	
第6回	推測統計その1（母集団、標本、統計的仮説検定の考え方）	講義	
第7回	推測統計その2（様々な分析手法とその選択）	講義	
第8回	精神物理学的測定法（調整、極限、恒常、適応法）と信号検出理論	講義	
第9回	信頼性と妥当性	講義	
第10回	検査法（項目分析と検査の標準化）	講義	
第11回	調査法（質問紙法）の注意点	講義	
第12回	単一尺度構成法（直接法と間接法）	講義	
第13回	多次元尺度構成法（SD法とMDS）	講義	
第14回	多変量解析	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（80%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（20%）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り、毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施するので、復習しておくこと

令和5年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語学	森若葉	1	2	後期	必修

◇講義概要

言語学の主要分野について、わかりやすい例を用いながら概説を行う。

◇到達目標

言語学の基礎的知識を確実に身につけ、国家試験の言語学分野の問題に対応する力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	世界の言語と文字－言語の多様性、言語の特性	講義	
第2回	音韻論（1）－音素と異音、最小対	講義	
第3回	音韻論（2）－相補分布、音変化、過去問	講義	
第4回	形態論（1）－形態素、語と接辞	講義	
第5回	形態論（2）－異形態、語形成	講義	
第6回	形態論（3）－最小対まとめ、過去問	講義	
第7回	日本語の特徴（1）－概略、敬語	講義	
第8回	日本語の特徴（2）－授受表現・書記体系	講義	
第9回	日本語の特徴（3）－まとめ、過去問	講義	
第10回	統語論（1）－文法範疇	講義	
第11回	統語論（2）－直接構成素分析、過去問	講義	
第12回	統語論（3）－統語構造、過去問	講義	
第13回	統語論（4）、意味論	講義	
第14回	試験・解説	試験・講義	
第15回	語用論、社会言語学・復習	講義	

評価方法	■試験（85%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（15%）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	なし。資料を毎講義時に配布。
参考図書	斎藤 純男『日本語音声学入門』、佐久間 淳一『言語学基本問題集』 研究社
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声学	大和シゲミ	1	3	前期	必修

◇講義概要

自分や他者の発音を観察することを通じて、発音に関する基礎的な知識と技術を身につける。その知識と技術は、発音上の問題点を適切に把握し、訓練や指導を行っていくための土台となる。

◇到達目標

- (1)自分や他者によって発せられた音声を観察し、その特徴が説明できる
- (2)国際音声記号の表が活用でき、国際音声記号による表記が理解できる
- (3)日本語音声の特徴が説明できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	(はじめに1) 発音のしくみ	講義・演習	
第2回	( // 2) 音声器官と音声記号	講義・演習	
第3回	( // 3) 単音の産出と分類	講義・演習	
第4回	(小さな単位1) 破裂音・鼻音	講義・演習	
第5回	( // 2) ふるえ音・はじき音・摩擦音(前半)	講義・演習	
第6回	( // 3) 摩擦音(後半)・接近音	講義・演習	
第7回	( // 4) その他の記号・非肺気流の子音	講義・演習	
第8回	( // 5) 二重構音・二次的構音・その他	講義・演習	
第9回	( // 6) 母音	講義・演習	
第10回	( // 7) 現代共通日本語の単音(1) 五十音図のかな	講義・演習	
第11回	( // 8) 現代共通日本語の単音(2) 撥音・促音など	講義・演習	
第12回	(大きな単位1) 音節とモーラ	講義・演習	
第13回	( // 2) アクセント1ー共通語アクセントの性質	講義・演習	
第14回	( // 3) アクセント2ー共通語アクセントの規則性	講義・演習	
第15回	( // 4) イントネーション	講義・演習	
第16回	( // 5) プロミネンス	講義・演習	

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

第17回	(おわりに1) 音素と音素論	講義・演習	
第18回	( 〃 2) 日本語の音素論、音声連続、構音の観察	講義・演習	
第19回	(まとめ1) 分節音	講義・演習	
第20回	(まとめ2) 超分節音	講義・演習	
第21回	試験・解説	試験・講義	
第22回	(国家試験過去問演習と解説) 分節音	講義・演習	
第23回	(国家試験過去問演習と解説) 超分節音	講義・演習	

評価方法	■試験 ( 60 %)	□実技試験 ( %)	□演習評価 ( %)
	■小テスト ( 20 %)	□レポート ( %)	■小課題 ( 20 %)

教科書	齋藤純男著『日本語音声学入門 改訂版』三省堂
参考図書	授業中に指示する。
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。また、学習した音声について繰り返し発音する練習をし、自分の中で何が起きているかを実感できるようになってください。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音響学	太田公子	1	2	前期	必修

◇講義概要

音声の音響的側面の理解に必要な音声理論と音響音声学の基礎を学ぶ。

◇到達目標

音声の音響的特徴を科学的に説明できるようにする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音の物理的側面（1）音の発生、音の伝わり方	講義	
第2回	音の物理的側面（2）純音、複合音、周波数、位相、振幅、波長、音速	講義	
第3回	音の物理的側面（3）周期音と非周期音	講義	
第4回	音の物理的側面（4）弦の振動、回折、ドップラー効果	講義	
第5回	音の物理的側面（5）デシベルについて	講義	
第6回	音の物理的側面（6）聴力レベル、感覚レベル、音の強さ	講義	
第7回	音の物理的側面（7）スペクトル	講義	
第8回	音声生成の音響理論（1）音の聞こえ、声が出るしくみ	講義	
第9回	音声生成の音響理論（2）音源フィルタ理論	講義	
第10回	音声生成の音響理論（3）サウンドスペクトログラム	講義	
第11回	音声の音響分析（1）音声のデジタル分析の基礎	講義	
第12回	音声の音響分析（2）音声の分析方法	講義	
第13回	総復習	小試験	
第14回	音声の音響分析（3）音声分析と考察	演習	
第15回	試験・解説	試験・講義	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	■演習評価（ %）
	■小テスト（ 20 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	たのしい音声学（くろしお出版）
参考図書	言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）
留意事項	講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に力を入れてください。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
聴覚心理学	田中里弥	1	1	後期	必修

◇講義概要

物体の振動で発生した「音」は、空気などを伝わり耳に届いた後、聴覚系の機能により大きさ・高さ・音色・音源の位置・音源の数などを知覚することで、総合的な音や音声の認識へとつながる。本講義ではさまざまな音のデモを実際に聞きながら、耳から入った音がそれぞれどのように知覚されるかを学ぶ。

◇到達目標

音波が耳から脳に到達するまでの間に、聴覚器官によってどのような処理が行われているか、物理的な音波の情報が聴覚によってどのような音の情報になるのかを理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音響学と聴覚の復習（音の性質と聴覚経路）	講義	
第2回	音の大きさの知覚（ラウドネス，聴力レベル，補充現象等）	講義	
第3回	音の高さの知覚（ピッチ、メル尺度、ミッシングファンダメンタル等）	講義	
第4回	音色と音声の知覚（ラフネスとシャープネス，フォルマント等）	講義	
第5回	両耳聴と音源定位（両耳間時間差・レベル差，聴覚仮想空間等）	講義	
第6回	聴覚フィルタとマスキング（臨界帯域，聴覚フィルタ等）	講義	
第7回	環境と聴覚・まとめ（聴覚の情景分析、国家試験問題分析等）	講義	
第8回	試験・補講（質問への回答、その他のトピックス解説）	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト ( 30 %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）、プリント配布
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達学	永安 香	1	1	前期	必修

◇講義概要

定型発達児の言語発達を学ぶ。  
言語獲得の仕組み、各年齢における言語の特徴を学ぶ。

◇到達目標

各年齢における言語の特徴を説明できる。  
定型発達児の言語発達の道程を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	言語発達の概要	講義	
第2回	言語獲得理論・前言語期の発達	講義	
第3回	前言語期の発達	講義	
第4回	語彙獲得期の発達	講義	
第5回	幼児前期の発達	講義	
第6回	幼児後期の発達	講義	
第7回	学童期の発達・読み書きの発達	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100%)	□実技試験 ( %)	□演習評価 ( %)
	□小テスト ( %)	□レポート ( %)	□その他 ( %)

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会保障制度	藤原一秀	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会保障制度(年金・医療・福祉)が具体的にどのように国民生活の安定につながっているか学ぶ
--

◇到達目標

<p>現行の法律・制度をその経緯を含めて理解する                  様々な障害者の困難さを理解し、その支援に適した法律・制度・技術を選択できるようにする</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会保障と社会福祉	講義	
第2回	社会保障制度① 現行の医療保険	講義	
第3回	社会保障制度② 介護保険と年金制度	講義	
第4回	社会保障制度③ 雇用保険と労働災害補償保険	講義	
第5回	社会福祉の法律と施策① 公的扶助 生活保護と自立支援	講義	
第6回	社会福祉の法律と施策② 障害者総合支援法 障害者の福祉と支援	講義	
第7回	社会福祉援助技術の概要 直接・間接援助技術 関連援助技術	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100 %)      □実技試験 (        %)      □演習評価 (        %) □小テスト (        %)      □レポート (        %)      □その他 (        %)
------	--

教科書	講義で資料を配布
参考図書	
留意事項	予習・復習に努めること。特に講義後は講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論	田中薫・野上尚克	1	1	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リハビリテーション＝訓練」ではないことを、語源にさかのぼって示し、リハビリテーション分野について説明する。</li> <li>・いくつかの経験をもとに、障害とは、ということを考えさせる</li> </ul>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの分野には何があるかがわかる</li> <li>・法律等によっても、障害者の範囲が変わることがわかる</li> <li>・自身の障害観、リハビリテーション観がもてる</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションとは？ 障害とは？ ICF	講義	田中
第2回	法律から見た障害者とは？ 医療リハとは？：変遷。急性期・回復期・生活期の対応	講義	田中
第3回	診療報酬・介護報酬からみたリハ、リハで遭遇する神経疾患	講義	田中
第4回	教育リハとは？：障害児教育史、特殊教育から特別支援教育へ	講義	田中
第5回	職業リハとは？：歴史、枠組み、雇用促進制度	講義	田中
第6回	社会リハとは？：総合支援（自立支援、環境アクセス）、欠格条項	講義	田中
第7回	地域リハとは？：変遷、地域包括リハ、訪問リハ	講義	野上
第8回	試験	試験	田中

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	自作資料
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療福祉教育・関係法規	玉木啓之	1	1	後期	必修

◇講義概要

言語聴覚法及びその他の関係する法律を学ぶ 福祉制度・教育制度について学ぶ。
--

◇到達目標

言語聴覚士法について説明できる。 医療制度やそれに関する制度について説明できる。
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	法律とは 医療・福祉に関する法律	講義	
第2回	言語聴覚士法について	講義	
第3回	医事法全般について	講義	
第4回	医療制度 診療報酬	講義	
第5回	福祉制度・教育制度全般について	講義	
第6回	個人情報保護法	講義	
第7回	全体のまとめ 国家試験過去問の解説	講義	
第8回	定期試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 ( 100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (       %) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input type="checkbox"/> レポート (       %) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
------	---

教科書	配布資料
参考図書	言語聴覚士テキスト (医歯薬出版株式会社) 公衆衛生がみえる (メディックメディア)
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害概論 I	専任教員・岸田隆之	1	2	前期	必修

◇講義概要

基礎科目と専門科目の関係性を学ぶ。  
言語聴覚士として全体的な概念を学ぶ。 (歴史・各障害の知識・職業倫理等)

◇到達目標

- ・言語聴覚士の歴史や職務が理解できる
- ・言語聴覚障害にかかわる基礎が理解できる
- ・自己を知り、障害のある方の立場に立って考えることができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	言語聴覚士の仕事と歴史・身体の仕組みを知る	講義・演習	玉木
第2回	脳のしくみと働きを知る	講義・演習	玉木
第3回	障がい疑似体験から困難状況を想像し、特徴を理解しよう	講義・演習	板橋
第4回	臨床の基礎 -コミュニケーションとは-	講義・演習	野上
第5回	臨床の基礎 -臨床の流れ(評価・診断・訓練・指導)-	講義	玉木
第6回	耳のしくみと働きを知る	講義	岸田
第7回	音声のしくみと働きを知る	講義	岸田
第8回	臨床の基礎 -インタビューでのかかわり方-	講義・演習	玉木
第9回	臨床の基礎 -評価と分析-	講義	玉木
第10回	臨床の基礎 -訓練場面の記録(ビデオ演習)-	講義	玉木
第11回	臨床の基礎 -カルテの記録方法-	講義	玉木
第12回	言語聴覚士の職務・職業倫理・リスクマネジメント	講義	玉木
第13回	嚥下障害の情報収集とかかわりかた	講義	板橋
第14回	摂食運動の自己分析	講義・演習	田尾
第15回	試験	試験	玉木

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100% ) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害概論Ⅱ	各学科専任教員、藤村真依、小向井英紀 奥本聡美	1	2	後期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者様を取り巻く言語聴覚士の役割や多職種の業務を学び、チームアプローチを理解できるようになる。</li> <li>・実習に向けて対人接遇を学ぶ。</li> </ul>
---

◇到達目標

<p>状況や場面への想像力、患者様の気持ちや実習における自分の態度への想像力をつけ、言語聴覚士の役割を知り、実習生として適切に行動できるようになる。</p>
--

◇授業計画

回数	内容（配布前に講義順序入れ替えること！）	講義形態	備考
第1回	チーム医療の必要性を知る	講義	野上
第2回	チームアプローチを学ぶ －チームにおける言語聴覚士の役割と視点－	講義	野上
第3回	チームアプローチを学ぶ －作業療法士の役割と訓練時の視点－	講義	島本
第4回	臨床実習に向けて ベッドサイドにおける実際① －寝返り・起き上がり・トランスファー－	演習・講義	板橋 専任教員
第5回			
第6回	チームアプローチを学ぶ －介護福祉士の役割と視点－	講義	加納
第7回	チームアプローチを学ぶ －看護師の役割と視点－	講義	看護学科 専任教員
第8回	チームアプローチを学ぶ －口腔ケアの必要性と方法の実際－	演習・講義	小向井 奥本
第9回			
第10回	チームアプローチを学ぶ －レクリエーションの実際－	演習・講義	中西
第11回	観察記録の実際	演習・講義	田尾
第12回	チームアプローチを学ぶ －管理栄養士の役割と視点－	講義	藤村
第13回	観察記録（ポイントのフィードバック）	講義	田尾
第14回	チームアプローチを学ぶ －理学療法の役割と訓練時の視点－	講義	歌川
第15回	試験	試験	野上

評価方法	■試験（100 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	配布資料
参考図書	
留意事項	演習の一部はケーシー着用（その都度連絡）。 講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学 I	野上尚克・上田健志	2	2	前期	必修

◇講義概要

ディスカッションを通して(グループ内、グループ間)を通して知識や気づきを増やし、アウトプットの力をつける。  
また発表にあたって、思考を纏める力をつける。

◇到達目標

- ・ディスカッションが行えるようになる。 ・症例報告書の作成が可能になる。
- ・診断(評価・考察)から訓練の立案までが可能となる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第2回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第3回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第4回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第5回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第6回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第7回	脳画像の見方Ⅰ 脳画像の基礎	講義	上田
第8回	脳画像の見方Ⅱ 撮影方法からよむ、脳画像上の同定	講義	上田
第9回	脳画像の見方Ⅲ 脳疾患を知る、治療、臨床への活かし方	講義	上田
第10回	脳画像の見方Ⅳ 脳疾患を知り、治療、臨床へ活かす	講義	上田
第11回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第12回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第13回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第14回	試験(症例報告書の作成)	試験	野上
第15回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験(100%) <input type="checkbox"/> 実技試験( )% <input type="checkbox"/> 演習評価( )% <input type="checkbox"/> 小テスト( )% <input type="checkbox"/> レポート( )% <input type="checkbox"/> その他( )%
------	---

教科書	1年生で使用した教科書・資料
参考図書	適宜紹介
留意事項	ディスカッションのグループは症例毎に変更。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学Ⅱ	玉木啓之 ・ 山岸直美 ・ 田尾史朗 野上尚克 ・ 他学科教員	2	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定型発達児の発達段階を学ぶ。</li> <li>・ 小児の言語発達障害児の分析評価を学ぶ。</li> <li>・ 初期評価の実技を学ぶ。</li> </ul>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定型発達児の発達段階を説明できるようになる。</li> <li>・ 小児の言語発達障害児の検査・分析評価ができるようになる。</li> <li>・ 対象者（小児）への初期評価におけるかかわりができるようになる。</li> </ul>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	臨床実習から学ぶ、訓練①	講義/演習	野上
第2回	臨床実習から学ぶ、訓練②	講義/演習	野上
第3回	事例から学ぶ(子どもの行動を記載する)	講義/演習	玉木
第4回	事例から学ぶ(子どもの行動を評価する)	講義/演習	玉木
第5回	事例から学ぶ(上記のフィードバック)	講義/演習	玉木
第6回	ことばかけの方法 ①(発達段階による違いを知る)	講義	山岸
第7回	ことばかけの方法 ②(大人側の要因に気づく)	講義	山岸
第8回	障害特性を知る(言語の四側面に着目する)	講義	山岸
第9回	症例検討(小児) エピソードと検査の分析	講義/演習	田尾・玉木
第10回	症例検討(小児) インテークの演習	講義/演習	田尾・玉木
第11回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ	講義/演習	田尾・玉木
第12回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ・総評	講義/演習	田尾・玉木
第13回	試験	試験	玉木
第14回	事例に基づくチームアプローチ	講義/演習	各学科教員
第15回	事例に基づくチームアプローチ	講義/演習	各学科教員

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 50%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (       %) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 50%) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
------	---

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症 I-1	野上尚克	1	2	前期	必修

◇講義概要

言語様式(話す、聴く、読む、書く)や様々な失語症候群の症状、病巣について理解できる。
--

◇到達目標

失語症の症状を理解し、鑑別が可能となる基礎を作る。
---------------------------

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	失語症について 大脳と言語野 原因疾患	講義	
第2回	言語の神経基盤・言語領域の血管支配	講義	
第3回	失語症の症状理解 I 言語症状	講義	
第4回	失語症の症状理解 II 近縁症状	講義	
第5回	失語症候群について I ブローカ失語	講義	
第6回	失語症候群について II ウェルニッケ失語	講義	
第7回	失語症候群について III 伝導失語、健忘失語、全失語	講義	
第8回	失語症候群について IV 超皮質性失語	講義	
第9回	失語症候群の復習①(古典的分類)	講義	
第10回	失語症候群について V 交叉性失語、皮質下性失語	講義	
第11回	失語症候群について VI 純粹型失語①	講義	
第12回	失語症候群について VII 純粹型失語②	講義	
第13回	失語症候群について VIII 原発性進行性失語	講義	
第14回	失語症候群の復習②	講義	
第15回	試験	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	失語症学 第3版 (医学書院) 失語症言語治療の基礎 (診断と治療社)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症 I-2	野上尚克・専任教員	1	2	後期	必修

◇講義概要

失語症の定義、症状と症候群、診断・評価、言語訓練について学ぶ。
---------------------------------

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の学びを生かし、分析や評価が可能になることを目指す。</li> <li>・障害にあった訓練(リハビリテーション)を考える。</li> <li>・専門用語を適切に用い言語症状を記録し、サマリーが書けるようになることを目指す。</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	失語症の復習	講義	
第2回	情報収集・スクリーニングテスト	講義・演習	
第3回	失語症における鑑別検査や掘り下げ検査の目的・内容の理解。	講義	
第4回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(1) 「聞く」	講義・演習	
第5回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(2) 「話す」	講義・演習	
第6回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(3) 「読む」	講義・演習	
第7回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(4) 「書く」「計算」	講義・演習	
第8回	SLTA の分析(1)	講義	
第9回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(1)	講義	
第10回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(2)	講義	
第11回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(3)	講義	
第12回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(4)	講義	
第13回	SLTA の分析(2) 項目を比較し解釈する	講義	
第14回	評価をまとめサマリーを作成する	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症学 第3版(医学書院)</li> <li>・失語症言語治療の基礎(診断と治療者)</li> <li>・標準失語症検査マニュアル第2版(新興医学出版)</li> <li>・なるほど失語症の評価と基礎(金原出版)</li> </ul>
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症Ⅱ	野上尚克・外部講師・専任教員	2	4	前期	必修

◇講義概要

・VTR や各種サンプル、先生方や当事者の話から、評価から訓練の実際の流れを学ぶ

◇到達目標

・各種検査を理解し訓練の目的が分かる ・各時期の対応がわかる ・STの活躍の場を知る  
 ・データをまとめて、客観的に症状メカニズムが考察できる ・STの役割を知る  
 ・患者様の問題点をICFで整理し、その他の情報とあわせて、目標を設定し、訓練計画が立案できる  
 ・適切な用語・文章でレポート（症例報告）が作成できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	失語症のおさらい、小児失語	講義	野上
第2回	鑑別診断	講義・演習	野上
第3回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅠ (WAB・重度失語症検査・CADL) ①	講義・演習	野上
第4回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅠ (WAB・重度失語症検査・CADL) ②	演習・演習	野上
第5回	検査選定の実際（症例①）	講義・演習	野上
第6回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅡ（TLPA・SALA・R-STA）①	講義・演習	野上
第7回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅡ（TLPA・SALA・R-STA）②	講義・演習	野上
第8回	検査選定の実際（症例②）	講義・演習	野上
第9回	神経心理学史：失語分類、検査・訓練史	講義	田中
第10回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ (SLTA-ST・標準抽象語理解力検査・トークンテスト モーラ分解抽出検査) ①	講義・演習	野上
第11回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ (SLTA-ST・標準抽象語理解力検査・トークンテスト モーラ分解抽出検査) ②	講義・演習	野上
第12回	失語症の回復過程	講義	野上
第13回	失語症の言語治療の理論と技法①	講義	野上
第14回	失語症の言語治療の理論と技法②	講義	野上
第15回	失語症の言語治療の実際（機能回復訓練）	講義	野上
第16回	急性期の失語症者への言語聴覚士のかかわり①	講義	小瀧

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

第17回	急性期の失語症者への言語聴覚士のかかわり②	講義	小瀧
第18回	失語症の言語治療の実際（活動・参加訓練）	講義	野上
第19回	回復期の失語症者への言語聴覚士のかかわり①	講義	道上
第20回	回復期の失語症者への言語聴覚士のかかわり②	講義	道上
第21回	生活適応期の訓練・支援と社会復帰	講義	野上
第22回	生活期（慢性期）の失語症者への言語聴覚士のかかわり①	講義	霜村
第23回	生活期（慢性期）の失語症者への言語聴覚士のかかわり②	講義	霜村
第24回	症例検討（評価・訓練の立案）	演習・演習	野上
第25回	評価サマリーの作成	講義	野上
第26回	対話会：フリートーク（桜の会）	講義	前田・教員 当事者
第27回	対話会：SLTA（桜の会）	講義	前田・教員 当事者
第28回	失語症友の会における言語聴覚士のかかわり	講義	前田
第29回	就労支援における言語聴覚士へのかかわり	講義	松本
第30回	試験	講義	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（ 80 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（    %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習（ 20 %） <input type="checkbox"/> 小テスト（    %） <input type="checkbox"/> レポート（    %） <input type="checkbox"/> その他（    %）
------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準言語聴覚障害学 失語症（医学書院）失語症言語治療の基礎（診断と治療社）</li> <li>・なるほど失語症の評価と治療（金原出版）標準失語症検査マニュアル第2版（新興医学出版）</li> </ul>
参考図書	
留意事項	講義前の予習や講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなどの復習に励むこと。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学 I	野上尚克・板橋美和	1	2	前期	必修

◇講義概要

・高次脳機能障害を学び、各疾患の理解を深め言語聴覚士に必要な基礎知識を得る。
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・背景症状と高次脳機能障害が鑑別できる。</li> <li>・各検査の目的を理解し、適切な検査が選択できる。</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	高次脳機能障害とは	講義	野上
第2回	神経心理学的な考え方と言語聴覚士の役割	講義	野上
第3回	行為・動作の障害Ⅰ：古典的な失行と関連障害のとらえ方	講義	野上
第4回	行為・動作の障害Ⅱ：標準高次動作性検査	講義	野上
第5回	失認Ⅰ：各感覚系の認知障害（視覚・聴覚・触覚）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第6回	失認Ⅱ：その他の認知障害（相貌・身体・病態）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第7回	失認Ⅲ：標準高次視知覚検査（VPTA）	講義	板橋
第8回	失認Ⅳ：標準高次視知覚検査（VPTA）	講義	板橋
第9回	前頭葉症状Ⅰ 主要な高次脳機能障害	講義	野上
第10回	検査：CAT、CAS	講義	野上
第11回	前頭葉症状Ⅱ 遂行機能障害の病巣、症状、訓練	講義	野上
第12回	検査：FAB、BADS	講義	野上
第13回	前頭葉症状Ⅲ 行為・行動障害（本能性把握、道具の使用障害、人格・情動障害） 原因疾患、症状	講義	野上
第14回	前頭葉症状Ⅳ 評価とリハビリテーション	講義	野上
第15回	試験	講義	野上

評価方法	■定期試験（ 100 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 医学書院
参考図書	高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版株式会社
留意事項	予習復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学Ⅱ	板橋美和・野上尚克・田尾史朗	1	2	後期	必修

◇講義概要

神経心理学のリハビリテーション、様々な神経心理症状の特徴と鑑別診断、治療等について学ぶ。

◇到達目標

高次脳機能障害の病態を知り鑑別が可能になる。  
各種神経心理検査の目的を理解し、適切な検査の選択や評価が可能になることを目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	記憶障害Ⅰ 記憶の過程、分類（神経学的・心理学的）を知る。	講義	板橋
第2回	検査：三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査、 Rey 複雑付図形	講義・演習	板橋
第3回	記憶障害Ⅱ 原因疾患、病巣、症状 (健忘：前向性・逆行性、一過性全健忘、作話など)を知る。	講義	板橋
第4回	検査：WMSR、リバーミッド行動記憶検査	講義・演習	板橋
第5回	視空間認知障害（半側空間無視とその検査）：原因仮説、原因疾患、病巣、 症状、訓練	講義・演習	野上
第6回	視空間認知障害（構成障害、地誌的見当識障害など）： 原因仮説、原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	野上
第7回	半球離断症候群の機序、症状の理解	講義	板橋
第8回	認知症の基本概念	講義	板橋
第9回	認知症の分類	講義	板橋
第10回	認知症の評価 HDS-R、MMSE、MoCA-J、ADAS CDR、MN スケール、N-ADL など	講義・演習	板橋
第11回	知能をはかり考える RCPM、コース立方体組み合わせテスト	講義・演習	板橋
第12回	脳外傷による高次脳機能障害	講義	田尾
第13回	認知コミュニケーション障害（脳外傷・右半球損傷）	講義	田尾
第14回	認知コミュニケーション障害（認知症・ALS・パーキンソン病）	講義	田尾
第15回	試験	試験	板橋

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	標準高次脳機能障害学 第3版 医学書院 高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版 石合純夫
参考図書	病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版 メディック・メディア

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

<b>留意事項</b>	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと
-------------	--

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害 I - 1	田尾史朗・池田沙弥香	1	2	前期	必修

◇講義概要

- ・言語発達障害とは何かの大枠を理解する
- ・知的能力障害の子どもたちの基本的特徴の理解を目指す。
- ・知的能力障害の子どもたちの評価・訓練の基本的理解を目指す。

◇到達目標

- ・言語発達障害とは何かの概略を理解し、説明できる
- ・知的障害の定義や特徴を説明できる。
- ・知的障害の評価法、指導法を理解でき説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	言語発達障害学とは何か（概論）	講義	田尾
第2回	知的障害の定義と体験	講義	田尾
第3回	動物療法①	演習	池田
第4回	動物療法②	演習	池田
第5回	言語発達学概論	講義	田尾
第6回	疫学と原因論：発生の基礎知識	講義	田尾
第7回	疫学と原因論：発症時期・病態による知的障害の区分	講義	田尾
第8回	知的能力障害の評価：概論	講義	田尾
第9回	知的能力障害の評価：感覚・認知	講義	田尾
第10回	知的能力障害の評価：コミュニケーション・言語	講義	田尾
第11回	ダウン症の乳児期の評価と訓練	講義	田尾
第12回	ダウン症の幼児期前期の評価と訓練	講義	田尾
第13回	ダウン症の幼児期後期～学童期の評価と訓練	講義	田尾
第14回	国試問題（知的能力障害系）対策	講義	田尾
第15回	試験	試験	田尾

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（    %） <input type="checkbox"/> 演習評価（    %） <input type="checkbox"/> 小テスト（    %） <input type="checkbox"/> レポート（    %） <input type="checkbox"/> その他（    ）
------	---

教科書	藤田郁代監『言語発達障害学 第3版』医学書院、2021年、及び配布プリント 副読本：岩田一成・岩崎淳也『言語学・言語発達障害学』メジカルビュー社、2022年
参考図書	勝二博亮『知的障害児の心理・生理・病理』北大路書房、2022年 Rhea Paul, Courtenay Norbury, Carolyn Gosse, <i>Language Disorders 5<sup>th</sup>ed</i> , Elsevier, 2018 他適宜使用
留意事項	予習・復習をすること（授業で指定あり）

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害 I - 2	田尾史朗・玉木啓之・前川祥・小濱正芳・永安香・山岸直美 藪下佑紀・井上麻由美	1	4	後期	必修

◇講義概要

- ・様々な発達障害を呈する子どもたちの基本的な理解を目指す。
- ・アセスメントについて理解する。
- ・各方面においてのSTの役割を学ぶ。

◇到達目標

- ・注意欠如・多動性障害の定義や特徴を説明できる。
- ・評価、診断の手順を説明できる。
- ・収集する情報（面接、検査）の種類、目的、方法について説明できる。
- ・支援方法について理解でき説明できる。
- ・医療・福祉等各方面においてのSTの役割や支援について述べるができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
1	言語発達障害とは（概論・復習・定義）	講義	田尾
2	制度関連、評価診断の流れ	講義	玉木
3	代表的な検査（検査の分類）	講義	田尾
4	検査（新版 K 式）	講義・演習	田尾
5	インテークの実際	講義	前川
6	検査（PVT、遠城寺式、津守など）	講義・演習	田尾
7	検査（S-S 法）	講義・演習	永安
8	検査（K-ABC）	講義・演習	田尾
9	地域の取り組みとSTの役割・支援事業の概要	講義	小濱
10	地域の取り組みとSTの役割・保護者のニーズと対応	講義	小濱
11	検査（WISC-5 WIPPSI-III DN-CAS）	講義・演習	田尾
12	検査（WISC-5 WIPPSI-III DN-CAS）	講義・演習	田尾
13	技法：インリアル基礎	講義・演習	山岸
14	技法：インリアルにおける分析の方法	講義・演習	山岸
15	職場での支援（就労移行支援）について	講義・演習	井上
16	就労支援の状況と課題（若年就職困難者職場実習等サポート事業の紹介含む）	講義・演習	井上
17	障害児通所施設におけるSTの役割	講義	前川
18	ADHD 概論（一般的特徴の把握、体験）	講義	田尾
19	ADHD の病態：診断基準と原因（遺伝、脳、アルコール）	講義	田尾
20	ADHD の評価：他疾患との鑑別（行動・エピソードから読み解く能力）	講義	田尾

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

21	ADHDの支援：基本方針と訓練の三原則（薬物・行動療法・環境調整）	講義	田尾
22	ADHDの支援：乳幼児期	講義	田尾
23	記録の方法①	講義・演習	玉木
24	ADHDの支援：学童期から青年期	講義	田尾
25	ADHDの支援・訓練（ABA、SST、ペアレントトレーニング）	講義	田尾
26	症例検討①	講義・演習	藪下
27	症例検討②	講義・演習	藪下
28	記録の方法②	講義・演習	玉木
29	ADHD：国試問題対策	講義	田尾
30	試験	試験	田尾

\*各講義において多少、内容が前後することがあります。

講義・演習

評価方法	■試験（ 100%） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	「言語発達障害学 第3版」医学書院2021年 および 配布プリント
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。講師の都合により順番は変更することがあります。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅱ	玉木啓之 ・ 羽崎恵子	2	2	前期	必修

◇講義概要

運動機能障害（脳性麻痺など）および重複障害（重症心身障害児）の症状を理解し、アプローチ方法を学ぶ。多職種による評価・アプローチの方法を学ぶ。またアプローチの基本となる姿勢・運動の問題についても基礎知識を得る。

◇到達目標

脳性麻痺児の定義・特徴・アプローチの方法を説明できる。  
 重複障害児の定義・特徴・アプローチの方法を説明できる。  
 支援（指導）における留意点を述べるができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳性麻痺の定義と疫学、原因、症状	講義	玉木
第2回	脳性麻痺 タイプ	講義	玉木
第3回	脳性麻痺 病態①	講義	玉木
第4回	脳性麻痺 発達評価とアセスメント	講義	玉木
第5回	重度心身障害児について(分類)	講義	玉木
第6回	重度心身障害児について (評価・訓練)	講義	玉木
第7回	摂食・嚥下の発達 定型発達との違い	講義	玉木
第8回	脳性麻痺児の摂食嚥下とオーラルコントロールについて	講義	玉木
第9回	訓練・対応(運動機能、コミュニケーション)	講義	玉木
第10回	訓練・対応(発声発語)	講義	玉木
第11回	正常運動発達・脳性麻痺の運動発達・臨床像	講義	羽崎
第12回	運動機能障害児への理学療法	講義	羽崎
第13回	脳性麻痺のAAC	講義	玉木
第14回	総まとめ(国家試験問題を用いて総復習を行う)	講義	玉木
第15回	試験	試験	玉木

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 % ) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	配布資料
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅲ	村井敏宏・奥村智人	2	2	前期	必修

◇講義概要

小児の発達障害である「学習障害」、とりわけ「読み書き障害」は、発達性の高次脳機能障害とも言える。そのため、障害の背景要因及び脳機能との関連を理解し、言語聴覚士としてのアセスメント法・訓練法についての理解を深める。

◇到達目標

- ・学習障害について、教育的定義と医学的定義を理解する。
- ・教科学習の基礎となる、読み書きの困難について理解する。
- ・読み書きの困難の背景要因、アセスメント法、支援方策、指導教材の実際について知る。
- ・学習障害に関連する障害について理解を深める。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	LDの定義と診断基準	講義	村井
第2回	LD理解のための諸情報	講義	村井
第3回	LD児の言語・コミュニケーションの問題	講義	村井
第4回	算数障害	講義	村井
第5回	読み書き障害の基礎理解1(かな文字)	講義	村井
第6回	読み書き障害の基礎理解2(漢字)	講義	村井
第7回	読み書き障害のアセスメントと支援1(かな文字)	講義・演習	村井
第8回	読み書き障害のアセスメントと支援2(漢字)	講義・演習	村井
第9回	読み書き障害の分類と評価	講義	村井
第10回	合理的配慮とICT活用	講義	村井
第11回	学習につまずく子どもの見る力①(視機能とは)	講義	奥村
第12回	学習につまずく子どもの見る力②(実際の子どもの姿)	講義	奥村
第13回	特異的言語発達障害	講義	村井
第14回	総まとめ	講義	村井
第15回	試験及び解説	試験・講義	村井

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	配布プリント
参考図書	「言語発達障害学」医学書院、「医療スタッフのためのLD診療・支援入門」診断と治療社
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害IV	川上有未	1	2	後期	必修

◇講義概要

自閉スペクトラム症について診断基準や特徴などの概要を学び、STとして評価・療育・支援をどのように行うのかについて考え理解を深める。

◇到達目標

1. 障害の捉え方について基本的理論の変遷と動向を知る
2. 自閉スペクトラム症について、用語、定義、特徴を知り、言語コミュニケーションの問題、諸側面の問題を理解する
3. 評価法、指導法など理解、説明することができ、STの役割を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発達障害の中のASD、DSM-5による診断基準と歴史	講義	
第2回	自閉症スペクトラム症の概要、原因と関係する脳部位	講義	
第3回	自閉スペクトラム症の特徴と状態像	講義	
第4回	自閉スペクトラム症と感覚の問題	講義	
第5回	年齢別の特徴	講義	
第6回	自閉スペクトラム症（知的な遅れがないタイプ）	講義	
第7回	二次障害、合併、対応の方法	講義	
第8回	評価と診断	講義	
第9回	アプローチ法(TEACCH、インリアル)	講義	
第10回	アプローチ法(ABA、PECS)	講義	
第11回	アプローチ法(太田のstage、ポーター等)	講義	
第12回	事例診断分析①	講義・演習	
第13回	就学と支援体制、思春期と就労に向けて	講義	
第14回	事例診断分析② 国家試験対策	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ( )% <input type="checkbox"/> 演習評価 ( )% <input type="checkbox"/> 小テスト ( )% <input type="checkbox"/> レポート ( )% <input type="checkbox"/> その他 ( )%
------	---

教科書	言語発達障害学 (医学書院)、配布プリント
参考図書	ADHD・高機能広汎性発達障害の教育と医療、言語聴覚士のための言語発達障害学 図解よくわかる自閉症
留意事項	小テストと過去問をしっかり理解すること

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声障害	大塚佳代子・堀田明人	2	2	前期	必修

◇講義概要

咽喉頭の解剖と呼吸発声機能、音声障害の発現機序と分類、評価法、治療法を学ぶ。

◇到達目標

「知識・技能」発声の動態に適した音声機能評価や治療手技を選択することができる。  
 「思考力・判断力・表現力」喉頭内視鏡の所見から、喉頭の病態や発声に関する問題点について説明できる。  
 「主体性・多様性・協働性」音声に対する興味、関心が高まり、自分自身や他人の声に注意が向く。また、与えられた課題に対し、積極的に他者と共同し取り組むことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸、発声の生理学的基盤	講義	大塚
第2回	喉頭の解剖学的基盤	講義	大塚
第3回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(1)	講義	大塚
第4回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(2)	講義	大塚
第5回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(3)	講義	大塚
第6回	音声障害の評価法(1)内視鏡、ストロボスコーピー、聴覚印象評価、等	講義	大塚
第7回	音声障害の評価法(2)空気力学的検査、音響学的検査、等	講義	大塚
第8回	音声治療(1) 音声治療の流れ、声の衛生指導	講義	大塚
第9回	音声治療(2) 症状対処的訓練、包括的訓練	講義	大塚
第10回	音声障害まとめ	講義	大塚
第11回	無喉頭音声について① メカニズム 検査	講義	堀田
第12回	無喉頭音声について② 特徴 リハビリテーション	講義	堀田
第13回	気管切開について	講義	堀田
第14回	音声障害者の社会復帰について	講義	堀田
第15回	試験	試験	大塚

評価方法	■試験 ( 70 %)    □実技試験 (        %)    □演習評価 (        %)
	■小テスト ( 30 %)    □レポート (        %)    □その他 (        %)

教科書	言語聴覚士のための音声障害学 編集 大森孝一 医歯薬出版株式会社
参考図書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版 編集 熊倉勇美/今井智子 医学書院
留意事項	授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと

令和年 6 度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害 I	赤井美貴子	1	2	後期	必修

◇講義概要

機能性構音障害について、講義と演習を併用して学び、ST として評価、訓練をどのようにして行うかについて、知識や理解の向上を目指す。

◇到達目標

- ・ 定型の構音発達を説明することができる。
- ・ 機能性構音障害とその他の構音障害の違いを説明することができる。
- ・ 検査内容を理解し、問題点をあげ、訓練目標・内容を立案することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第 1 回	構音の仕組み	講義	
第 2 回	日本語の語音と音声表記	講義	
第 3 回	構音の発達	講義	
第 4 回	構音障害の定義、臨床の流れ	講義	
第 5 回	構音検査	講義	
第 6 回	評価（誤り音の種類）	講義	
第 7 回	評価（異常構音）	講義	
第 8 回	構音検査のまとめ、構音検査以外の検査	講義	
第 9 回	構音訓練の概要	講義	
第 10 回	構音訓練の進め方、家族指導	講義	
第 11 回	構音訓練の実際	講義	
第 12 回	構音検査の練習	演習・講義	
第 13 回	事例による演習（音声の聞き取り、評価）	演習・講義	
第 14 回	事例による演習（まとめ）、総復習	演習・講義	
第 15 回	試験、総まとめ	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（80%） <input type="checkbox"/> 実技試験（    %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（10%） <input type="checkbox"/> 小テスト（    %） <input type="checkbox"/> レポート（    %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（構音絵カード 10%）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版（医学書院）
参考図書	改訂 機能性構音障害（建帛社） 特別支援教育における 構音障害のある子どもの理解と支援（学苑社）
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅱ	南都智紀	2	2	前期	必修

◇講義概要

特に運動性構音障害のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ

◇到達目標

- ・運動性構音障害の分類とその特徴、代表的な原因疾患について説明できる
- ・運動性構音障害の評価に関して、基本的な発声発語器官機能検査、聴覚印象評価の手技を獲得できる
- ・リハビリテーションの流れを把握し、発声、共鳴、構音に関して代表的な訓練方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発声発語器官の構造と神経機構	講義	南都
第2回	構音障害の概要と運動性構音障害	講義	南都
第3回	運動性構音障害のタイプ分類と原因疾患、運動機能障害	講義・演習	南都
第4回	聴覚的な発話特徴	講義・演習	南都
第5回	タイプごとの病態特徴と重症度（痙性、弛緩性、UUMN）	講義	南都
第6回	タイプごとの病態特徴と重症度（失調性、運動低下性、運動過多性）	講義	南都
第7回	運動性構音障害の評価（検査の概要、一般的情報の収集）	講義	南都
第8回	運動性構音障害の評価（発話の検査、発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第9回	運動性構音障害の評価（発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第10回	運動性構音障害の評価（発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第11回	運動性構音障害の治療（姿勢、呼吸、発声）	講義・演習	南都
第12回	運動性構音障害の治療（共鳴、構音）	講義・演習	南都
第13回	運動性構音障害の治療（補綴的治療、発話速度の調整）	講義・演習	南都
第14回	運動性構音障害の治療（AAC、気管切開への対応）	講義	南都
第15回	試験	試験	南都

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	配布資料 ディサースリア臨床標準テキスト 第2版 西尾正輝 著/医歯薬出版株式会社 標準ディサースリア検査 新装版 西尾正輝 著/インテルナ出版 気管カニューレの種類とその使い分け (高研)
参考図書	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 医療情報科学研究所 編/メディックメディア
留意事項	実技等へ積極的に参加すること、他者の発声や発話を観察する習慣を身につけること 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅲ	橋田 直	1	2	後期	必修

◇講義概要

器質性構音障害の中でも口腔・中咽頭癌術後の構音障害について学習する。序論では口腔・咽頭の解剖学の復習を行う。その後、舌口腔癌の治療法やリハビリテーション技術について座学での学習・演習を行い、当分野を体系的に理解していく。

◇到達目標

1.発話明瞭度の検査から再建術と機能回復、舌の切除型と言語成績、構音位置・方法などの構音成績を分析・考察できる。2.口腔・中咽頭癌切除後の構音障害に対して補綴的発話補助装置の適応・訓練方法などを提案できる。3.評価や訓練後の担当医への報告ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	口腔・中咽頭癌のリハビリテーション概論	講義	
第2回	がんについて	講義	
第3回	口腔・顎・咽頭の形態と構造	講義	
第4回	口腔と言語機能	講義	
第5回	軟組織・顎に発生する悪性腫瘍	講義	
第6回	口腔・中咽頭癌の手術	講義	
第7回	器質性構音障害の評価	講義	
第8回	構音検査と分析	講義	
第9回	器質性構音障害の訓練	講義	
第10回	器質性構音障害に関わる摂食・嚥下障害について	講義	
第11回	補綴と機能回復・咀嚼障害・口腔ケア	講義	
第12回	症例検討：発話明瞭度の分析、訓練目標の設定、訓練方法の検討	講義	
第13回	チームアプローチ	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学—器質性構音障害— 医歯薬出版株式会社
参考図書	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション*構音障害,摂食・嚥下障害* 医歯薬出版株式会社
留意事項	本講義は器質性構音障害ですが、解剖学や音声学、摂食嚥下障害など様々な他の内容とオーバーラップします。解剖学や音声学など不安なところがあれば復習しておきましょう。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害IV	鷺見麻里・小松岳	2	2	前期	必修

◇講義概要

口蓋裂の言語臨床に必要な発声発語器官の障害について系統的に学ぶ。  
 出生から治療終了までの各時期の言語管理について学ぶ。

◇到達目標

治療チームの一員として、出生直後から患児と家族のサポートを行い、言語管理を行うことができるよう、知識と技術を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	鷺見
第2回	解剖 口蓋裂の分類	講義	鷺見
第3回	類似疾患	講義	鷺見
第4回	鼻咽腔閉鎖機能	講義	鷺見
第5回	鼻咽腔閉鎖機能の評価	講義	鷺見
第6回	鼻咽腔閉鎖機能不全の治療	講義	鷺見
第7回	構音障害	講義	鷺見
第8回	構音障害	講義	鷺見
第9回	異常構音	講義	鷺見
第10回	構音障害に対する治療	講義	鷺見
第11回	哺乳障害と治療	講義	小松
第12回	口蓋裂言語検査	講義	鷺見
第13回	口蓋裂言語検査	演習	鷺見
第14回	口蓋裂治療の流れ	演習	鷺見
第15回	試験 まとめ(解説)	試験・講義	鷺見

評価方法	■試験 (70%)	□実技試験 ( )%	□演習評価 ( )%
	■小テスト (30%)	□レポート ( )%	□その他 ( )%

教科書	口蓋裂の言語臨床 第3版 医学書院
参考図書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版 医学書院
留意事項	基本的にスライドは配布しないので、教科書に書き込む、ノートをとる等してください。 授業中に分からないことがあればそのままにせず、積極的に質問してください。授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
嚥下障害 I	板橋美和・野上尚克・田尾史朗	1	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる事の重要性を認識し、正常な摂食嚥下機能を学ぶ。</li> <li>・摂食嚥下障害の分類や合併症を学ぶ。</li> </ul>
---

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下の定義や概念について説明できる。</li> <li>・嚥下モデルの種類と特徴について説明できる。</li> <li>・嚥下に関する筋と神経について説明できる。</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	摂食嚥下とは	講義	板橋
第2回	嚥下のメカニズム（嚥下の5期とプロセスモデル）先行期～口腔期	講義	板橋
第3回	嚥下のメカニズム（嚥下の5期とプロセスモデル）咽頭期～食道期	講義	板橋
第4回	摂食嚥下障害をおこす脳卒中（仮性球麻痺・球麻痺）	講義	板橋
第5回	摂食嚥下障害の原因	講義	板橋
第6回	嚥下に関する筋 顔面筋、咀嚼筋、舌筋、口蓋筋	講義	板橋
第7回	嚥下に関する筋 舌骨上筋、舌骨下筋、内喉頭筋	講義	板橋
第8回	嚥下に関する筋 国試問題 嚥下運動における筋活動	講義	板橋
第9回	嚥下に関与する神経・咽頭感覚・嚥下中枢と大脳の関与	講義	板橋
第10回	誤嚥と呼吸器疾患について	講義	田尾
第11回	老化と嚥下機能の関係	講義	田尾
第12回	小児の摂食嚥下障害	講義	田尾
第13回	摂食嚥下評価 スクリーニング検査 MASA	講義	板橋
第14回	摂食嚥下評価 VE・VF	講義	野上
第15回	試験	試験	板橋

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 藤島一郎 著/医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 藤田郁代 監修/医学書院 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修/ 中山書店
参考図書	嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 聖隷嚥下チーム / 医歯薬出版株式会社 病気がみえる7脳・神経 第2版 /メディックメディア
留意事項	授業で使用する教科書とプリントを中心に予習と復習を行って下さい。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
嚥下障害Ⅱ	板橋美和・野上尚克・田尾史朗・小松岳	2	3	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下障害Ⅰで学んだ基礎をふまえ、摂食嚥下障害の基本的な訓練法について学ぶ。</li> <li>・脳卒中患者における実際の評価・訓練を学ぶ</li> <li>・リスク管理のための必要な知識を学ぶ。</li> </ul>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下のスクリーニング評価が出来る。</li> <li>・訓練計画を立てることが出来る。</li> <li>・学んだことを実習で活かすことができる。</li> <li>・国家試験の過去問題を解くことが出来る。</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	基礎の復習(正常嚥下の仕組み)と 誤嚥の種類	講義	板橋
第2回	摂食嚥下障害の総合評価と評価スケール	講義	板橋
第3回	リハビリテーションアプローチ(4つの方法) 摂食時の姿勢(総論)	講義	板橋
第4回	食品調整 食べやすさとは・ゼラチンと寒天の違いなど	講義	板橋
第5回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 説明と準備について 治療的アプローチ(嚥下訓練) 基礎的嚥下訓練 頭部挙上訓練・押し運動・メンデルソン手技など	講義	板橋
第6回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 スライス法・丸飲み法・複数回嚥下など	講義	板橋
第7回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 息こらえ嚥下・横向き嚥下・一側嚥下など	講義	板橋
第8回	訓練法のまとめと過去問	講義	板橋
第9回	チームアプローチ・摂食嚥下障害における倫理の問題	講義	板橋
第10回	薬物療法と外科的対応(総論:術式と戦略、過去問)	講義	板橋
第11回	脳卒中患者の嚥下訓練の実際	講義	板橋
第12回	気管切開のある患者への対処法:カニューレの種類と特徴	講義	板橋
第13回	頸部聴診法	講義・演習	板橋

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

第14回	呼吸リハビリテーションと吸引の基本	講義	板橋
第15回	実技① 吸引(吸引器と模擬人形を使用した演習)	演習	板橋 野上 田尾
第16回	実技② 呼吸リハビリテーション	演習	板橋 野上 田尾
第17回	評価・診断の整理・まとめ方	講義	板橋
第18回	症例検討 観察の記録 (初回評価)	講義	板橋
第19回	症例検討 観察の記録 (VF)	講義	板橋
第20回	症例のまとめ	講義	板橋
第21回	哺乳障害の見方	講義	小松
第22回	哺乳障害の対応	講義	小松
第23回	試験	試験	板橋

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (      %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (      %) <input type="checkbox"/> 小テスト (      %) <input type="checkbox"/> レポート (      %) <input type="checkbox"/> その他 (      %)
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 藤島一郎 著 / 医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 藤田郁代 監修 / 医学書院 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修 / 中山書店
参考図書	嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 聖隷嚥下チーム / 医歯薬出版株式会社 病気がみえる7脳・神経 第2版 / メディックメディア
留意事項	演習時はケーシー、白靴を着用してください。 授業で使用する教科書とプリントを中心に予習と復習を行って下さい。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
吃音	圓越広嗣・後藤文造	2	2	前期	必修

◇講義概要

吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。

◇到達目標

1. 吃音の症状と進展段階について説明できる。
2. 表面に出ている症状だけでなく背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応できる。
3. 吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	吃音当事者の苦悩について	講義	圓越
第2回	吃音の基礎知識①（種類、発生率、原因論）	講義	圓越
第3回	吃音の基礎知識②（吃音症状、進展段階、悪化要因）	講義	圓越
第4回	吃音訓練法①（直接法について）	講義	圓越
第5回	吃音訓練法②（間接法、RASSについて）	講義	圓越
第6回	吃音臨床の実際①（小児領域：環境調整法）	講義	圓越
第7回	吃音臨床の実際②（小児領域：事例検討）	講義	圓越
第8回	吃音臨床の実際③（小児領域：家族からの質問への対応）	講義	圓越
第9回	吃音臨床の実際④（成人領域：メンタルリハーサル法）	講義	圓越
第10回	吃音臨床の実際⑤（成人領域：事例検討）	講義	圓越
第11回	吃音臨床の実際⑥（成人領域：その他の対応について）	講義	圓越
第12回	吃音臨床の実際⑦（成人領域：患者からの質問への対応）	講義	圓越
第13回	セルフヘルプグループについて	講義	後藤
第14回			
第15回	試験・解説	試験・講義	圓越

評価方法	■試験（ 100%）	□実技試験（       %）	□演習評価（       %）
	□小テスト（       %）	□レポート（       %）	□その他（       %）

教科書	都筑澄夫編著「改訂吃音」建帛社 都筑澄夫編著「間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への遡及的アプローチ」三輪書店
参考図書	適宜紹介する
留意事項	演習ではグループワークを行います。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど復習に努めること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害 I	堀 一夫	1	2	後期	必修

◇講義概要

小児聴覚障害について、実際の子どもの様子を学びながら、その特性を理解し、支援方法の基礎を身につける。

◇到達目標

1. 小児聴覚障害の各発達段階の特徴と支援方法について概説できる。
2. コミュニケーションモードの特徴を理解し、基礎的な技術の素養を身につける。
3. いろいろな事例への取り組みを通して、子ども理解の基礎的な態度を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚障害の概要（聴覚の機能、聴覚の発達、聴覚障害の多様性など）	講義	
第2回	聴覚障害のハビリテーション1（障害とは、歴史と現状など）	講義	
第3回	聴覚障害のハビリテーション2（ハビリテーションの概要、発達段階など）	講義	
第4回	小児聴覚障害の評価 発達評価、言語・コミュニケーションの評価	講義	
第5回	小児のハビリテーションの考え方	講義	
第6回	コミュニケーションモードと指導法	講義	
第7回	小児聴覚障害の指導・支援1 コミュニケーションと環境調整	講義	
第8回	小児聴覚障害の指導・支援2 聴覚活用	講義	
第9回	小児聴覚障害の指導・支援3 言語認知発達指導	講義	
第10回	小児聴覚障害の指導・支援4 発声発語指導	講義	
第11回	小児聴覚障害の指導・支援5 書記言語指導	講義	
第12回	小児聴覚障害の指導・支援6 教科学習	講義	
第13回	小児聴覚障害の指導・支援7 発達と障害認識	講義	
第14回	小児聴覚障害の指導・支援8 重複障害	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 100%）	□実技試験（        %）	□演習評価（        %）
	□小テスト（        %）	□レポート（        %）	□その他（        %）

教科書	聴覚障害学第3版. 城間将江・鈴木恵子・小淵千絵編 医学書院. 2021年
参考図書	
留意事項	授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するということを大切にしてください。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅱ	板東美知子・専任教員	2	2	前期	必修

◇講義概要

<p>・小児の聴覚障害の診断に必要な聴力検査(BOA.COR.VRA.ピープショウ検査.遊戯聴力検査.乳幼児聴覚検診など)の原理と方法について学ぶ。・聴覚障害乳幼児への支援について事例を通して学ぶ。</p>
---

◇到達目標

<p>1. 小児に対する聴力検査を説明できる。                  2. 小児への聴能、言語、コミュニケーションへの支援についてすすめ方がわかる。                  3. 事例提示した小児への支援内容をグループで討議し、模擬的に実施できる。</p>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚の発達と乳幼児の聴力検査の概要	講義	
第2回	乳幼児の聴力検査(BOA.COR)	講義・演習	
第3回	乳幼児の聴力検査(VRA、ピープショウ検査)	講義・演習	
第4回	乳幼児の聴力検査(遊戯聴力検査、まとめ)	講義・演習	
第5回	選別聴力検診(乳幼児健康診査)	講義	
第6回	小児の語音聴力検査、小テスト	講義	
第7回	幼児期の聴覚学習について	講義	
第8回	幼児期の聴覚学習の支援の実際	講義・演習	
第9回	幼児期の言語学習	講義	
第10回	幼児期の言語学習の支援の実際	講義・演習	
第11回	幼児期の発音の支援の実際	講義・演習	
第12回	事例検討①(支援のねらいと内容について、グループで討議・実施し発表)	講義・演習	
第13回	事例検討②(支援のねらいと内容について、グループで討議・実施し発表)	講義・演習	
第14回	試験	試験	専任教員
第15回	まとめ	講義	

評価方法	■試験 ( 80 %)    □実技試験 (    %)    □演習評価 (    %) ■小テスト ( 20 %)    □レポート (    %)    □その他 (    %)
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版(医学書院) 聴覚検査の実際 改訂4版(南山堂)
参考図書	
留意事項	乳幼児の発達のみちすじを確認しておいて下さい。あらかじめ予習し、講義後は内容の理解を深めるためにポイント等をまとめ、復習に努めてください。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅲ	前田恵美子・廣中嘉隆・岸田隆之・柁村健吾	2	2	前期	必修

◇講義概要

・主に小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を知り、指導・支援の実際について学ぶ。
---

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害の福祉や教育の制度や施策について理解する。</li> <li>2. 小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を理解し、多様な考え方やアプローチの方法があることを知る。</li> <li>3. 保護者支援の重要性や関係機関との連携について説明できる。</li> </ol>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	療育・教育の制度・施策、療育・教育機関の特徴、就学支援、自立活動、合理的配慮、理解学習	講義 4/22	前田
第2回			
第3回	福祉事業所における聴覚障害児へのかかわり (親へのかかわり、個別支援計画等について)	講義 5/1	廣中
第4回			
第5回	医療現場における聴覚障害者(成人)へのかかわり (補聴器フィッティング、耳なり等について)	講義 5/13	前田
第6回			
第7回	聴覚器官の発達	講義 5/29	岸田
第8回	聴覚障害の発生率、障害児数		
第9回	先天性あるいは小児期における聴覚障害の原因	講義 6/12	
第10回	検査(種類と実施)		
第11回	教育における聴覚障害教育①通級指導教室について	講義 6/15	柁村
第12回	教育における聴覚障害教育②通級指導教室の指導について		
第13回	福祉制度について	講義 6/17	前田
第14回	聴覚障害にかかわる総まとめ		
第15回	試験	試験 7/8	前田

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)

教科書	プリント配布
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版(医学書院)
留意事項	各講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめなど行うこと。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害 I	矢吹裕栄	1	2	後期	必修

◇講義概要

聴覚障害の理解に必要な聴こえのシステムの基礎をしっかりと把握する。主要な聴覚検査の概要を理解する。難聴や聴覚障害者とのコミュニケーション方略を体験する。聴覚検査の結果から、どのような支援が可能かを考える。

◇到達目標

1. 聴こえのシステムのしっかりと理解しイメージを把握する。
2. 検査結果から問題点を考えどのような支援が出来るか考える事が出来る。
3. 解剖・機能、検査、疾患の関連を正しく把握し、国家試験に必要な基礎力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音とは何か、聴こえとは、基本用語の確認	講義	
第2回	聴覚器の解剖と機能 伝音系	講義	
第3回	聴覚器の解剖と機能 感音系	講義	
第4回	難聴のタイプ分類と関連疾患	講義	
第5回	聞こえない事による困難 聞こえない事で生じる日常生活上の困難	演習・講義	
第6回	難聴者とのコミュニケーション方略、クリアスピーチ	演習・講義	
第7回	聴力検査法1 純音聴力検査	演習・講義	
第8回	聴力検査法2 自記オーディオメトリー	講義	
第9回	聴力検査法3 語音聴力検査と聴力検査結果の実例	講義	
第10回	聴覚検査法4 その他の聴覚検査	講義	
第11回	成人の聴覚障害の評価、成人聴覚障害者への支援	講義	
第12回	補聴器と人工内耳による聴覚補償について	講義	
第13回	成人聴覚障害の事例	講義	
第14回	聴覚器と検査結果と疾患の関連の確認 (まとめ)	演習・講義	
第15回	試験 (60分)・総括 (30分)	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版 (医学書院) 他に必要な資料はプリントで配布する。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅱ	川江清子	1	2	後期	必修

◇講義概要

- ・成人の聴覚機能の診断に必要な各種聴覚機能検査（純音聴力検査、語音聴力検査、内耳機能検査、他覚的聴力検査など）の原理と方法について学ぶ。

◇到達目標

1. 成人に対する各種聴覚機能検査の原理、実施手続き、分析方法について理解できる。
2. 実技演習をとおして検査・診断の技能を身につけ、模擬的に実施できる。
3. 聴覚検査の結果を分析し、聴覚障害症状との関連性について考察できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚機能検査について、気導聴力検査	講義	
第2回	骨導聴力検査、自記オージオメトリー	講義	
第3回	マスキング（気導、骨導）	講義	
第4回	内耳機能検査	講義	
第5回	語音了解閾値検査、語音弁別検査、マスキング	講義	
第6回	インピーダンス・オージオメトリー、アブミ骨筋反射	講義	
第7回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第8回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第9回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第10回	[小テスト]、聴性誘発反応（蝸電図、ABR）	講義	
第11回	聴性誘発反応（ASSR）、耳音響放射（OAE）	講義	
第12回	機能性難聴の検査、耳鳴検査	講義	
第13回	耳管機能検査、平行機能検査	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 20 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	聴覚検査の実際 改訂5版（南山堂）
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院）
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど復習に努めること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅲ	川江清子	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>・成人聴覚障害の診断や指導・支援で必要となる検査法や評価法を理解し、障害の特性やライフステージ上の課題など、個々のニーズや課題にあわせた指導・支援について学ぶ。</p>
---

◇到達目標

<p>1. 聴覚障害の診断・指導・支援に必要な検査法、評価法について説明できる。                  2. コミュニケーションストラテジーや情報保障、障害認識の意義について説明できる。                  3. 社会福祉制度や就労支援・生活支援について理解する。</p>
---

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	検査と評価①（聴覚の検査・評価）	講義	
第2回	検査と評価②（コミュニケーション方法や言語力の検査・評価）	講義	
第3回	指導・支援と計画①（補聴器の活用、聴能訓練）	講義	
第4回	指導・支援と計画②（コミュニケーションストラテジー、集団訓練）	講義	
第5回	指導・支援と計画③（障害認識）、就労・生活支援	講義	
第6回	情報保障（補聴援助システム、手話通訳、要約筆記）	講義	
第7回	聴覚障害にかかわる総まとめ	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 100 %）      □実技試験（      %）      □演習評価（      %） □小テスト（      %）      □レポート（      %）      □その他（      %）
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂4版（南山堂）
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなどして復習に努めること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
補聴器・人工内耳	森 尚彫	2	2	前期	必修

◇講義概要

補聴器や人工内耳の特徴、装用効果などの概要を学び、聴覚障害領域における言語聴覚士の役割や業務について考察し、理解を深める。

◇到達目標

1. 補聴器と人工内耳の知識を学び、説明できるようになることを目的とする
2. 聴覚補償機器における補聴器と人工内耳の違いを理解し、説明できる
3. 補聴器と人工内耳のそれぞれの効果やリハビリテーションについて概説できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	難聴と聴覚補償機器について	講義	
第2回	補聴器の概要(しくみや機能等)	講義	
第3回	補聴器の装用効果や特性、特性測定について	講義	
第4回	成人の補聴器フィッティング	講義	
第5回	小児の補聴器フィッティング	講義	
第6回	補聴器の評価、適合検査について	講義	
第7回	まとめ・国家試験過去問演習(補聴器領域)	講義	
第8回	人工内耳の概要(しくみや機能等)	講義	
第9回	人工内耳の適応基準について	講義	
第10回	成人の人工内耳マッピングについて	講義	
第11回	小児の人工内耳マッピングについて	講義	
第12回	人工内耳の装用効果と限界(両耳装用など)	講義	
第13回	人工内耳のトピックス・その他の人工聴覚機器	講義	
第14回	まとめ・国家試験過去問演習(人工内耳領域)	講義	
第15回	定期試験	試験	

評価方法	■試験 ( 80 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	■小テスト ( 20 %)	□レポート (        %)	□その他 (            %)

教科書	聴こえの障がいと補聴器・人工内耳入門:基礎からわかる Q&A (学苑社)
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版 (医学書院)
留意事項	毎回の授業内容をしっかり復習しておくこと

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
視覚聴覚二重障害	田中薫・小間瑠実	2	1	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の話を聞いて、何が不自由で何ができるかを学ぶ</li> <li>・ろうベース, 盲ベースによる障害、対応の違いを学ぶ</li> </ul>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚聴覚二重障害の分類とそれに対するコミュニケーション方法が分かる</li> <li>・いくつかのコミュニケーション手段に興味を持てる</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	視覚聴覚二重障害とは? : 当事者のVTRをみながら	講義	小間
第2回	視覚聴覚二重障害者とのコミュニケーションの実際	講義・演習	小間
第3回	視覚障害とは? ・視機能の発達と異常	講義	田中
第4回	視覚聴覚二重障害の分類・原因 対応: 眼科リハ、耳鼻科リハ、療育・教育	講義	田中
第5回	対応: コミュニケーション手段・支援 STの役割 ・連携	講義	田中
第6回	AAC ・福祉サービス ・患者会 ・合理的配慮とは	講義	田中
第7回	試験	講義	田中
第8回	復習: 国家試験の過去問を通して	試験	小間

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	---

教科書	自作資料
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版 医学書院
留意事項	予習・復習を行うこと。 特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど復習に努めること。

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スポーツ・レクリエーション	中西 信之	2	1	前期	選択

◇講義概要

レクリエーションの基本的な理解を踏まえて、健康寿命の延伸に向けてスポーツ未実施者に向けてからだを動かすことの喜びと健康的な社会生活の構築を図ることのできる指導者養成を目的とする。

◇到達目標

スポーツレクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	スポーツレクリエーション概論について	講義演習	
第2回	スポーツレクリエーション生理学と参加促進について	講義演習	
第3回	スポーツレクリエーション心理学と動機付け技術	講義演習	
第4回	スポーツレクリエーション参加促進法	講義演習	
第5回	継続のための場づくり	講義演習	
第6回	動機付けの支援技術	講義演習	
第7回	動機付けの支援技術(レク式体力支援実技)	講義演習	
第8回	安全管理と行政のしくみ	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (       %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input type="checkbox"/> レポート (       %) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
教科書	楽しさをおとした心の元気づくり スポーツレクリエーション指導者養成テキスト他
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 校外活動授業に参加 そのほか集中授業があり(土日曜授業) 他の授業に差し支えないように開始終了を調整する 服装は自由・上靴使用 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがあります 受講に当たりレクリエーション関係の授業はすべて履修が必要です

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション活動援助法 I	中西 信之	1	1	前期	選択

◇講義概要

レクリエーションを通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーション活動の方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する
------------------------------------

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション紹介	講義演習	
第2回	オリエンテーション	講義演習	
第3回	自己紹介	講義演習	
第4回	レクリエーションとは	講義演習	
第5回	アイスブレイキング技法	講義演習	
第6回	集団心理とレクレクリエーション	講義演習	
第7回	レク素材1 (小児編)	講義演習	
第8回	レク素材2 (成人編)	講義演習	
第9回	パネルシアターについて	講義演習	
第10回	パネルシアター (製作原案づくり)	講義演習	
第11回	パネルシアター (製作作業)	講義演習	
第12回	パネルシアター4 (実施)	講義演習	
第13回	集団レク専科1 (校外演習)	講義演習	
第14回	集団レク専科2 (校外演習)	講義演習	
第15回	集団レク専科3 (校外演習)	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (       %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (       %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (       %) <input type="checkbox"/> レポート (       %) <input type="checkbox"/> その他 (       %)
教科書	レクリエーション支援の基礎 楽しさをとおした心の元気づくり 他
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 校外活動授業に参加 そのほか集中授業があり(土日曜授業) 他の授業に差し支えないように開始終了を調整する 服装は自由・上靴使用 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがあります 受講に当たりレクリエーション関係の授業はすべて履修が必要です

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション活動援助法Ⅱ	中西 信之	1	1	後期	選択

◇講義概要

レクリエーションを通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーション活動の方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する
------------------------------------

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ソングの使い方回想法	講義演習	
第2回	集団レクリエーション	講義演習	
第3回	手遊びを使つてのアレンジ法	講義演習	
第4回	活動の分析	講義演習	
第5回	レクリエーション支援とアレンジの考え方	講義演習	
第6回	集団を介したレク活動の実際1（ゲームを使つて）	講義演習	
第7回	集団を介したレク活動の実際2（演習）	講義演習	
第8回	コミュニケーションワークと実践1（歌と回想）	講義演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践2（演習）	講義演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践3 レクリエーションプログラム	講義演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	講義演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験（       %） <input type="checkbox"/> 実技試験（       %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（ 100 %） <input type="checkbox"/> 小テスト（       %） <input type="checkbox"/> レポート（       %） <input type="checkbox"/> その他（       %）
教科書	レクリエーション支援の基礎 楽しさをとおした心の元気づくり 他
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 校外活動授業に参加 そのほか集中授業があり(土日曜授業) 他の授業に差し支えないように開始終了を調整する 服装は自由・上靴使用 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがあります 受講に当たりレクリエーション関係の授業はすべて履修が必要です

令和6年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション活動援助法Ⅲ	中西 信之	2	1	前期	選択

◇講義概要

レクリエーションを通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーション活動の方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する
------------------------------------

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ソングの使い方回想法	講義演習	
第2回	集団レクリエーション	講義演習	
第3回	手遊びを使つてのアレンジ法	講義演習	
第4回	活動の分析	講義演習	
第5回	レクリエーション支援とアレンジの考え方	講義演習	
第6回	集団を介したレク活動の実際1（ゲームを使つて）	講義演習	
第7回	集団を介したレク活動の実際2（演習）	講義演習	
第8回	コミュニケーションワークと実践1（歌と回想）	講義演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践2（演習）	講義演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践3 レクリエーションプログラム	講義演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	講義演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験（        %） <input type="checkbox"/> 実技試験（        %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（ 100 %） <input type="checkbox"/> 小テスト（        %） <input type="checkbox"/> レポート（        %） <input type="checkbox"/> その他（        %）
教科書	レクリエーション支援の基礎 楽しさをとおした心の元気づくり 他
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 校外活動授業に参加 そのほか集中授業があり(土日曜授業) 他の授業に差し支えないように開始終了を調整する 服装は自由・上靴使用 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがあります 受講に当たりレクリエーション関係の授業はすべて履修が必要です